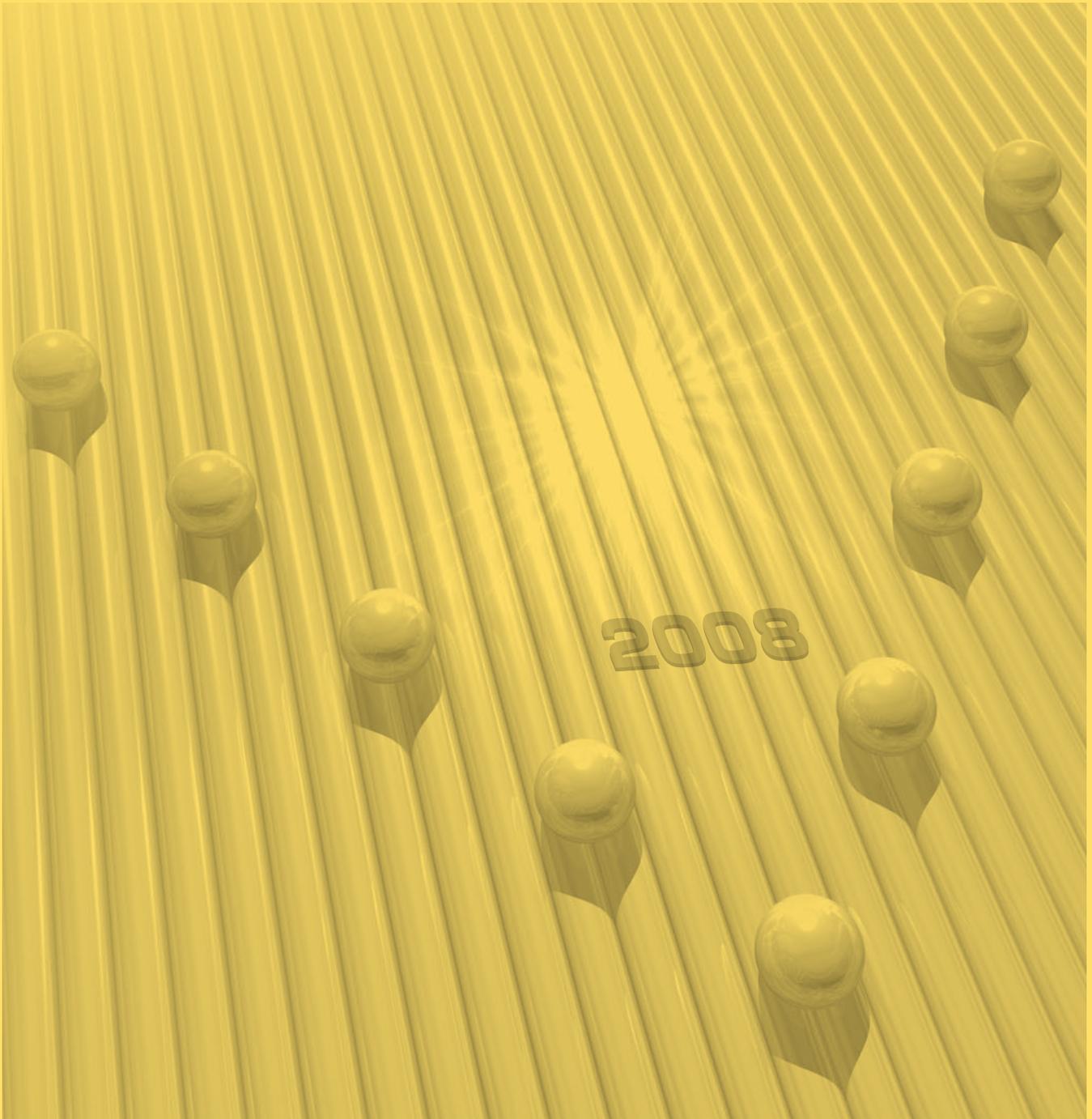


2008年度

シラバス

国際教養学部



獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

★本シラバスは、2007年度以降入学者用の「国際教養学部言語文化学科」授業科目シラバスです。

I 目次について

【シラバスページの検索方法】

- ① 目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。
- ② 目次の順番とシラバスの掲載順が異なることがあります。科目名とページ番号をよく確認してください。
- ③ 本年度開講のない科目は掲載されていません。

【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

② 表記方法

全： 国際教養学部以外全て	経： 経済学部	法： 法学部
外： 外国語学部	済： 経済学科	律： 法律学科
独： ドイツ語学科	営： 経営学科	国： 国際関係法学科
英： 英語学科		総： 総合政策学科
仏： フランス語学科		

II シラバス本文の見方

- ① 開講学期
- ② 科目名
このシラバスは、2007年度以降入学者を対象にした科目を掲載しています。
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。
- ④ 学期の授業計画についての欄です。各回ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。
- ⑥ 評価方法について記載されています。
- ⑦ ページの上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
	第1週	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
	第1週	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2.定員

言語文化学科の一部科目および「全学共通授業科目」は定員を設けています。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

3.記載方法

一部の科目については記載方法が異なる場合があります。

4.変更等

内容等の変更があった場合には、履修登録会場または教務課掲示板にてお知らせします。登録前に必ず確認してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2007年度以降入学者用)

目次

必須教養科目群

「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習a	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	基礎演習b	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	浅山 佳郎	月4	2	1	全	2
	春	哲学Ⅰ	松丸 壽雄	金4	2	1	全	3
	春	現代世界論	佐藤 勸治	月4	2	1	全	4

「外国語」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	5
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	6
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	7
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	5
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	7
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	8
	春	英語Ⅲ(S)	各担当教員		1	2	全	9
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	10
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	8
	秋	英語Ⅳ(S)	各担当教員		1	2	全	9
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	10
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	11
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	12
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	13
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	14
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	11
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	12
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	13
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	14
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	15
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	16
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	17
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	18
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	15
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	16
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	17
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	18
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	21
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	22

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
	春	中国語Ⅲ(会話1)	永田 小絵		1	2	全	25
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	永田 小絵		1	2	全	25
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	平田 由紀江		1	1	全	27
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	平田 由紀江		1	1	全	28
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	金 秀晶		1	1	全	29
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	金 秀晶		1	1	全	30
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	平田 由紀江		1	1	全	27
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	平田 由紀江		1	1	全	28
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	金 秀晶		1	1	全	29
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	金 秀晶		1	1	全	30
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	平田 由紀江		1	2	全	31
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	平田 由紀江		1	2	全	32
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	金 秀晶		1	2	全	33
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	金 秀晶		1	2	全	34
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	平田 由紀江		1	2	全	31
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	平田 由紀江		1	2	全	32
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	金 秀晶		1	2	全	33
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	金 秀晶		1	2	全	34

必須教養科目群

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	35
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勘治	月5	2	1	全	35
14676	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勘治	木4	2	2	全	36
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	月2	2	2	全	37
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2	全	38
14596	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	月4	2	2	全	39
14677	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勘治	木4	2	2	全	36
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	月2	2	2	全	37
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2	全	38
14597	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	月4	2	2	全	39
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	矢澤 達宏	水4	2	2	全	40
14621	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	二宮 哲	月5	2	2	全	41
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金3	2	2		42
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金3	2	2		42
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	43
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火2	2	2	全	44

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13470	春	中国研究入門	上村 幸治	月5	2	1		45
14605	秋	中国研究Ⅰ(中国社会学論)	上村 幸治	月5	2	2		45
14586	春	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	永田 小絵	月3	2	2	全	46
14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	47
14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	47
14594	春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	上村 幸治	月4	2	2	法	48
14595	秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	上村 幸治	月4	2	2	法	48
14678	春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	武信 彰	木4	2	2	全	49
14587	秋	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	永田 小絵	月3	2	2	全	46
14679	秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	木4	2	2	全	49
14691	春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	巖 明	金2	2	2	全	50
14692	秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	巖 明	金2	2	2	全	50
14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	巖 明	火3	2	2	全	51
14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	巖 明	火3	2	2	全	51

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13141	春	韓国研究入門	平田 由紀江	水1	2	1	全	52
14675	春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	平田 由紀江	火3	2	2	全	53
14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会学論)	平田 由紀江	水2	2	2	全	54
14627	秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 秀晶	火5	2	2	全	55
14567	春	韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	平田 由紀江	水2	2	2	全	54
14974	春	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	全 載旭	水3	2	2	全	56
14889	秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月4	2	2	全	57
14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	金 秀晶	火5	2	2	全	58
14667	秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	金 秀晶	木3	2	2	全	58
14892	春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	金 貞我	月5	2	2	全	59
14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月3	2	2	全	60
14894	秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	月5	2	2	全	61
14890	春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	金 熙淑	月4	2	2	全	57
14893	秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	金 貞我	月5	2	2	全	59

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月2	2	1	全	62
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	63
13199	春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	火5	2	1	全	64
13200	秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	火5	2	1	全	64
13201	春	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	波形 昭一	火5	2	1	全	65
13202	秋	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	波形 昭一	火5	2	1	全	65
13203	春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	飯島 一彦	木3	2	1	全	66
14674	秋	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	水2	2	2	全	66
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	67
14851	秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	長野 隆之	金1	2	2	全	68
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	飯島 一彦	水2	2	2	全	69
14850	春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	長野 隆之	金1	2	2	全	68
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	飯島 一彦	木5	2	2	全	70
14645	春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	飯島 一彦	木5	2	2	全	71
14647	秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	木3	2	2	全	71

「多言語間交流研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13443	春	多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	安間 一雄	火3	2	1	全	72
13444	秋	多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	安間 一雄	火3	2	1	全	72
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	安間 一雄	水2	2	1	全	73
13147	秋	多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	安間 一雄	水2	2	1	全	73
13142	秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	佐藤 勉	火3	2	1	全	74
14636	春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	水1	2	2	全	75
14637	秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	水1	2	2	全	75
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	藤田 永祐	金3	2	2	全	76
14853	秋	多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	片山 亜紀	木3	2	2	全	76
15238	春	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	遠藤 朋之	木4	2	2	全	77
14888	秋	多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	白鳥 正孝	月4	2	2	全	77
14854	春	多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	児嶋 一男	月3	2	2	全	78
14855	秋	多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	児嶋 一男	月3	2	2	全	78
14617	春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	火3	2	2	全	79
14618	秋	多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火3	2	2	全	79
14592	春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	山本 英政	月4	2	2	全	80
14593	秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	山本 英政	月4	2	2	全	80
15211	春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	柴原 智幸	水3	2	2		81
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水2	2	2		82
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		83
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	柴原 智幸	水3	2	2		81
14659	秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		82
15034	秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		83

「多文化共生研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13204	春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	井上 兼行	月2	2	1	全	84
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	井上 兼行	月2	2	1	全	84
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村 圭子	土1	2	1	全	85
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	85
13210	春	多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	岡村 圭子	木1	2	1	全	86
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	2	1	全	86
14856	春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	木3	2	2		87
14857	秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	木3	2	2		87
14565	春	多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	井上 兼行	火2	2	2	全	88
14566	秋	多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	井上 兼行	火2	2	2	全	88
14568	秋	多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	井上 兼行	木2	2	2	全	89
14663	春	多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	90
15176	春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	火3	2	2	全	91
14664	秋	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	90
15007	秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	水2	2	2	全	92
14699	春	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーン社会)	佐藤 勘治	水2	2	2	全	93
14569	秋	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	井上 兼行	火4	2	2	全	94

「国際交流研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	上村 幸治	水1	2	1		95
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	金4	2	1		96
13212	春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	火3	2	1	全	97
13143	秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水5	2	1	全	98
13320	秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	金4	2	1		96
13213	秋	国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	上村 幸治	木3	2	1		99
14860	春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	全	100
14861	秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	全	100
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火3	2	2	全	101
14979	秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火3	2	2	全	101
14868	春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	福永 文夫	金3	2	2	全	102
14869	秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	福永 文夫	金3	2	2	全	102
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	森 健	金3	2	2	全	103
14871	秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	森 健	金3	2	2	全	103
14872	春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	火2	2	2	全	104
14873	秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	火2	2	2	全	104

「宗教・文化・歴史研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13144	春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	1	全	105
13214	春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	106
13215	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	106
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	松丸 壽雄	火2	2	1	全	107
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	松丸 壽雄	火2	2	1	全	107
14874	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	谷口 郁夫	月4	2	2	全	108
14669	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	川村 肇	木3	2	2	全	109
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	藤原 和彦	火2	2	2	全	110
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	2	全	110
14700	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	松丸 壽雄	金3	2	2	全	111

「日本語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13216	春	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	中西 家栄子	水1	2	1	全	112
13217	春	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	小山 慎治	木4	2	1	全	113
14687	春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	中西 家栄子	木5	2	2		114
14688	秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	中西 家栄子	木5	2	2		114
14879	春	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	磯村 一弘	月5	2	2		115
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	浅山 佳郎	月1	2	2		116
14558	秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	浅山 佳郎	月1	2	2		116
14559	秋	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	浅山 佳郎	木1	2	2	全	117
14563	秋	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	浅山 佳郎	金1	2	2		118
14693	春	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	中西 家栄子	金2	2	2		119
14694	秋	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	中西 家栄子	金2	2	2		119
14612	春	日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	中西 家栄子	火2	2	2		120
14613	秋	日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	中西 家栄子	火2	2	2		120
14668	秋	日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教育教材論)	中西 家栄子	水1	2	2	全	121

「教育科学研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13219	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	火3	2	1	全	122
13218	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木2	2	1	全	122
13220	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	月1	2	1	全	123
13221	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	水2	2	1	全	123
14670	秋	教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	川村 肇	木3	2	1	全	124
13223	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	火3	2	1	全	122
13224	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	木2	2	1	全	122
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	臼井 智美	月4	2	1	全	125
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	臼井 智美	月5	2	1	全	125
13227	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	126
13228	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	126
13474	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	横田 雅弘	火4	2	1	全	127
13475	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	森川 正大	水1	2	1	全	128
13476	春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	129
14749	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	臼井 智美	月5	2	2	全	130
14750	秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	臼井 智美	月4	2	2	全	130
14751	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	火3	2	2	全	131
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	林 尚示	月5	2	2	全	132
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	木3	2	2	全	133
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	133
14672	春	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	134
14759	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	135
14760	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	135
14761	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	森川 正大	水1	2	2	全	136
14866	秋	教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	小島 優生	木2	2	2	全	137
14862	春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	138
14863	秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	138
14867	春	教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	小島 優生	木2	2	2	全	137
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	水3	2	2	全	139
14864	秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木2	2	2	全	140
14649	春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木3	2	2	全	141
14629	秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	梶野 克之	木2	2	2	全	142
14877	春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金3	2	2	全	143
14604	秋	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネージメント)	松原 裕	月5	2	2	全	144
14878	春	教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)	青柳 多恵子	水3	2	2	全	145

「自然・環境研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13229	春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	東 孝博	月2	2	1	全	146
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	東 孝博	月2	2	1	全	146
13477	春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	福井 尚生	月3	2	1	全	147
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	福井 尚生	月3	2	1	全	147
13231	春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	福井 尚生	金1	2	1	全	148
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	福井 尚生	金1	2	1	全	148
13233	春	自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	福井 尚生	月1	2	1	全	149
13234	秋	自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	福井 尚生	月1	2	1	全	149
15182	春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	木3	2	2	全	150
15183	秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	木3	2	2	全	150
14619	春	自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	加藤 僖重	火3	2	2	全	151
14620	秋	自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	加藤 僖重	火3	2	2	全	151
14608	春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	加藤 僖重	火1	2	2	全	152
14609	秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	加藤 僖重	火1	2	2	全	152

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14882	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	水2	2	2	全	153
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木2	2	2	全	153
14665	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木3	2	2	全	153
14883	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	水2	2	2	全	153
14614	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木2	2	2	全	153
14666	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木3	2	2	全	153

「多言語情報処理研究科目群」

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	154
15078	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	内田 俊郎	木2	2	2	全	155
15077	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	内田 俊郎	木3	2	2	全	155
15120	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	金子 憲一	月4	2	2	全	155
15081	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火2	2	2	全	155
15084	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	155
15085	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	長崎 等	水1	2	2	全	155
15100	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	月3	2	2	全	155
15101	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	月3	2	2	全	155
14642	春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	呉 浩東	水1	2	2	全	156
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木3	2	2	全	157
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木2	2	2	全	157
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月4	2	2	全	157
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	157
15088	春	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	長崎 等	水2	2	2	全	158
15181	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	長崎 等	水2	2	2	全	158
14690	春	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	水3	2	2	全	159
14560	秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	浅山 佳郎	火1	2	2	全	160
14697	春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	呉 浩東	木3	2	2	全	161
14698	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	呉 浩東	木3	2	2	全	161
14880	春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	松山 恵美子	月4	2	2	全	162
14881	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	松山 恵美子	月4	2	2	全	162
14610	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	163
15083	春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	164

全学総合科目

「スポーツ・レクリエーション部門」(国際教養学部クラス指定科目)

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) A	青柳 多恵子	土1	1	1	全	165
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) B	松原 裕	土1	1	1	全	166
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) C	依田 珠江	土1	1	1	全	167
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) D	梶野 克之	土2	1	1	全	168
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) E	松原 裕	土2	1	1	全	169
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) F	依田 珠江	土2	1	1	全	170

(春) (春)	基礎演習 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎演習の目的は、1年次に今後4年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスおよびケアおよび2年次以降の専門研究に対処できるよう準備することにある。</p> <p>そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーの能力を高めていくことを課題とする。</p>		<p>1.基礎演習の目標と課題 (1回)</p> <p>2.大学生活を考える (1回) 大学で学ぶ心構え (目標、課題)、将来展望 (学習計画、キャリア形成)、サークル活動など</p> <p>3.問題の発見と書き方 (3回) 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート・小論文の書き方、要約の仕方</p> <p>4.話し方、聴き方、ノートのとおり方 (2回) グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートの取り方</p> <p>5.読み方、文章理解 (2回) 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方</p> <p>6.パソコンの利用 (3回) 文章作成の基本、eメールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方</p> <p>7.秋学期・基礎演習 b の選考および決定 (1回)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		出欠状況およびレポートなどにより、総合的に評価する	

(秋) (秋)	基礎演習 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の基礎演習では、7名の教員によって、独自になされる。</p> <p>講義の目的、講義の概要、授業計画については、春学期の基礎演習の時間に、各教員より説明がある。</p> <p>ここでは、また2年次以降の履修計画を指導教員(クラス担任)と相談のうえ、決めていく。</p>		各担当教員による	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		各担当教員による	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	言語文化論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを考えるための授業である。学科が設けている「選択教養科目群」の中の研究科目群のそれぞれが、おおまかにどのような内容の分野であり、どういうことが学べるのか、卒業後の進路もふくめて、大きな見取り図を描くことを目的とする。この授業を履修することで、3学期以降の履修計画に資するとともに、演習選択のための参考ともなる。</p> <p>〔講義概要〕 とりあげられるのは、スペイン・ラテンアメリカ研究、中国研究、韓国研究、日本研究、多言語間交流研究、多文化共生研究、国際交流研究、宗教・文化・歴史研究、日本語教育研究、教育科学研究、自然・環境研究、多言語情報処理研究の12の選択教養科目群であり、毎回、それぞれを担当する教員をゲストとしてむかえ、それぞれの「群」がどのような構成になっているのか、それぞれの「群」の目的は何か、などを講義するとともに、学生からの質問に答える形式をできるだけきりぎりとりたい。</p>		<p>第1回 授業のすすめかた 第2回 スペイン・ラテンアメリカ研究科目群について 第3回 中国研究科目群について 第4回 韓国研究科目群について 第5回 多言語間交流研究科目群について 第6回 多文化共生科目群について 第7回 国際交流研究科目群、および多言語情報処理研究科目群について 第8回 日本語教育研究科目群および日本研究科目群について 第9回 宗教・歴史・文化研究科目群について 第10回 教育科学研究科目群について 第11回 自然・環境研究科目群について 第12回 演習について 第13回 言語文化と教養</p> <p>なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引』		出席をきびしく要求する。くわえて適宜、提出物を要求する。	

(春) (春)	哲学 I	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行う。</p> <p>その課題とは、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要説明 2. 国際教養学部と哲学 3. 課題説明とグループ分け 4. 各グループごとの調査研究 5. 各グループごとの調査研究 6. 第一、第二グループの発表と討論 7. 第三、第四グループの発表と討論 8. 第五、第六グループの発表と討論 9. 第七、第八グループの発表と討論 10. 第九、第十グループの発表と討論 11. 第十一、第十二グループの発表と討論 12. 第十三、第十四グループの発表と討論 13. 全体討論。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示。		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定、およびレポートから最終判定。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	現代世界論	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
<p>この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的なテーマに沿って、受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究への入り口になることを目的にしている。そのため、この授業が主な対象としているのは、一年目の学生である。</p> <p>現代世界は、受講生や担当教員もその構成員である。それゆえ、現代世界の諸問題は、ほかでもない、我々自身の問題であることを講義を通じて明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勘治 <u>総論 ポストコロニアルとしての現代世界</u></p> <p>2 飯島一彦 <u>多文化社会としての日本</u></p> <p>3 岡村圭子 <u>グローバル社会と文化</u></p> <p>4 永田小絵 <u>現代社会における通訳という仕事</u></p> <p>5 田口雅徳 <u>顔の心理学</u></p> <p>6 工藤律子 (ジャーナリスト) <u>ストリートチルドレン:路上でくらす子供たちが語るもの</u></p>	
講義概要		7 佐藤勘治 <u>先住民とはだれか? アメリカ大陸と日本</u>	
<p>主に、言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生、コミュニケーション、平和、歴史、スポーツ、哲学、心理学など多様な視角から、それぞれ問題提起をしてもらう。統一のテーマは設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一側面を論じることになる。</p> <p>ゲストスピーカーでは、工藤律子氏 (ジャーナリスト) を招いて、ストリートチルドレンについて、また、自らが無国籍の経験をもつ陳天璽氏 (国立民族学博物館) を招いて、無国籍の現状やその問題点を講演していただくほか、平和構築についてアフガニスタンなどで取材経験があるジャーナリストを招くつもりでいる。</p> <p>テーマや担当者の変更の可能性がある。</p>		8 平田由紀江 <u>旅する食 Traveling Foods</u>	
受講生への要望		9 陳天璽 <u>「無国籍」を生きるとは?</u>	
授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。積極的な発言を期待している。		10 未定 (ジャーナリスト) <u>平和構築のために何が必要か?</u>	
評価方法		11 川村肇 <u>「共和国」という考え方と近代</u>	
毎回の小レポート。期末のレポート。		12 依田珠江 <u>社会的弱者のスポーツする権利</u>	
テキスト、参考文献		13 松丸壽雄 <u>現代世界と私たち</u>	
参考文献 陳天璽『無国籍』新潮社 2005 年 工藤律子『ストリートチルドレン:メキシコシティの路上に生きる』岩波ジュニア新書			

(春) (春)	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: <i>New Directions</i> (Cambridge University Press) 中級上 Intermediate high level: <i>Strategic Reading III</i> (Cambridge University Press) 中級中 Intermediate mid level: <i>Strategic Reading II</i> (Cambridge University Press) 中級下 Intermediate low level: <i>Strategic Reading I</i> (Cambridge University Press)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%)</p> <p>出席: 出席を大前提とする。7回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

(秋) (秋)	英語 II (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	英語 I (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級、中級上・中：Dynamic Presentations (桐原書店) 中級下：Nice Talking with You (McMillan) & Getting Ready for Speech (Language Solutions)</p>		<p>参加態度、予習、努力等 (10%)，口頭発表 (30%)，期末ペアインタビュー(30%)，課題到達度(30%)</p>	

(秋) (秋)	英語 II (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 I(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

(春) (春)	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: <i>Sourcework</i> (Cengage) 中級 Intermediate level: <i>Effective Academic Writing 2</i> (Oxford)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%), 期末作文課題 (20%), 授業参加態度 (20%), ポートフォリオ (10%)</p>	

(秋) (秋)	英語 II (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語 I (W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	英語Ⅲ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅡIE」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級：Exploring Language (Pearson Education) 中級上・中：Academic Encounters: Life in Society (Cambridge University Press) 中級下：The Powerful Reader (McMillan)</p>		<p>課題 (20%)，多読関連 (20%)，語彙テスト (20%)，期末テスト (40%) 出席：出席を大前提とする。7回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

(秋) (秋)	英語Ⅳ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅢIE」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	英語Ⅲ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。「英語Ⅱ(S)」に引き続き、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか、異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、正確に情報が伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級：Academic Encounters: Life in Society (LS) (Cambridge University Press) 中級上・中：People Like Us, Too (McMillan) 中級下：People Like Us (McMillan)</p>		参加態度、予習、努力等 (10%) , 口頭発表 (30%), 期末ディスカッション(30%), 課題到達度(30%)	

(秋) (秋)	英語Ⅳ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅲ(S)」に引き続き、柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、より説得力があるメッセージが伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

(春) (春)	英語Ⅲ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: <i>Sourcework</i> (Cengage) 中級 Intermediate level: <i>Effective Academic Writing 3</i> (Oxford)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%), 期末作文課題 (20%), 授業参加態度 (20%), ポートフォリオ (10%)</p>	

(秋) (秋)	英語Ⅳ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	スペイン語 I (総合 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合) は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 I (総合 2) とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 形容詞 ⑤ ser, estar 動詞の使い方 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑧ 代名詞の用法 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語 II (総合 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 II (総合 1) は、スペイン語 I (総合 1, 2) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合) は、スペイン語 II の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 II (総合 2) とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 比較表現 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑧ 点過去と線過去の違い ⑨ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑬ 命令表現 <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語 I (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) はスペイン語 I (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>		<p>スペイン語 I (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。</p>	

(秋) (秋)	スペイン語 II (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 II (総合 2) は上記のスペイン語 II (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>		<p>スペイン語 II (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。</p>	

(春) (春)	スペイン語 I (入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(入門) では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語 I (総合1, 2) の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合1, 2) の項目と同じであるが、(入門) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I (総合1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語 II (基礎表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (入門) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(基礎表現) では、(総合1, 2) の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 II (総合1, 2) の項目と同じであるが、(基礎表現) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 II (総合1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語 I (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話) では、スペイン語 II (総合 1, 2)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 II(総合 1, 2)の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 II (総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語 II (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (会話) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(会話)では、スペイン語 I (総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合 1, 2)の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I (総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語Ⅲ (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語Ⅳ (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 III (総合) の継続である。</p> <p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語Ⅲ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語Ⅳ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 III (講読) の継続である。</p> <p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語Ⅲ (会話 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(会話 1)(会話 2) のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話) の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>(LL) の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語Ⅳ (会話 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(会話 1)(会話 2) のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話) の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>(LL) の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	スペイン語Ⅲ (会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ(会話1) を参照。		各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(秋) (秋)	スペイン語Ⅳ (会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ(会話1) を参照。		各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

(春) (春)	中国語Ⅰ (総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1～3 発音・ピンイン 4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6 形容詞述語文、選択疑問文 7 中間試験 復習 8 二重目的文、量詞 9 連動文、年月日・曜日の言い方 10 有／没有、几／多少、方位詞、数詞 11 在、金額の表現 12 助動詞、語気助詞“了” 13 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅱ (総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1 主述述語文、程度補語、離合詞 2 進行相、動詞の重ね型 3 方向補語、結果補語 4 持続相、可能補語 5 経験相、将然相、時刻の表現 6 存現文 7 中間試験 復習 8 “把”字文、定着表現、到達表現 9 比較の表現 10 受身文 11 様態補語 12 使役文、後置修飾 13 “（是）…的”構文</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	中国語Ⅰ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 復習 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～13 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅱ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 復習 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 11～13 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 第2課 第3課</p> <p>7 中間試験 復習</p> <p>8～10 第4課 第5課 第6課</p> <p>10～13 第7課 第8課 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。</p>		<p>1～3 第9課 第10課 第11課</p> <p>4～6 第12課 第13課 第14課</p> <p>7 中間試験 復習</p> <p>8～10 第15課 第16課 第17課</p> <p>11～13 第18課 第19課 第20課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 復習 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～13 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 復習 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 11～13 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	中国語Ⅲ (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<p>1 第1課 2 第2課 3 第3課 4 第4課 5 第5課 6 第6課 7 中間試験 復習 8 第7課 9 第8課 10 第9課 11 第10課 12 第11課 13 第12課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅳ (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<p>1 第13課 2 第14課 3 第15課 4 第16課 5 第17課 6 第18課 7 中間試験 復習 8 第19課 9 第20課 10 第21課 11 第22課 12 第23課 13 第24課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	中国語Ⅲ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第1課 第2課</p> <p>4～6 第3課 第4課</p> <p>7 中間試験 復習</p> <p>8～10 第5課 第6課</p> <p>11～13 第7課 読み物 (プリント教材)</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』(白帝社) + (各クラス担当者作成の) プリント教材</p>		<p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

(秋) (秋)	中国語Ⅳ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 第9課</p> <p>4～6 第10課 第11課</p> <p>7 中間試験 復習</p> <p>8～10 第12課 第13課</p> <p>11～13 第14課 読み物 (プリント教材)</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』(白帝社) + (各クラス担当者作成の) プリント教材</p>		<p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

(春) (春)	中国語Ⅲ (会話 1)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。聴解力増強・語彙力増強のため、聞き取り小テストを毎回行う。</p> <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>テキストの第一課から第三十三課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Scene1～3 2. Scene4～6 3. Scene7～9 4. Scene10～12 5. 中間テスト1 6. Scene13～15 7. Scene16～18 8. Scene19～21 9. Scene22～24 10. 中間テスト2 11. Scene25～27 12. Scene28～30 13. Scene31～33 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席・課題の提出状況および授業に対する積極性を 50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を 50% で評価します。	

(秋) (秋)	中国語Ⅳ (会話 1)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。聴解力増強・語彙力増強のため、聞き取り小テストを毎回行う。</p> <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>テキストの第 34 課から第 66 課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Scene34～36 2. Scene37～39 3. Scene40～42 4. Scene43～45 5. 中間テスト1 6. Scene46～48 7. Scene49～51 8. Scene52～54 9. Scene55～57 10. 中間テスト2 11. Scene58～60 12. Scene61～63 13. Scene64～66 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席・課題の提出状況および授業に対する積極性を 50%、中間テスト・期末テストの点数を 50% で評価します。	

(春) (春)	中国語Ⅲ (会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」</p> <p>中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の1~33の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介、家庭Ⅰ・Ⅱ 2 住まい、食事、買い物 3 1日のスケジュール、通学・通勤、学校 4 授業Ⅰ・Ⅱ、中国語 5 テスト、 留学、部活動 6 アルバイト、就職、仕事 7 中間試験 復習 8 病気、健康 9 余暇、趣味、レジャー 10 旅行、スポーツ 11 グルメ、タバコ・酒 12 ショッピング、おしゃれ 13 恋愛、電話・手紙 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』(東方書店)		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(秋) (秋)	中国語Ⅳ (会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の34~66の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テレビ・新聞、映画、音楽 2 読書、訪問、パーティ 3 パースデー・クリスマス、生活、ことば 4 故郷、天気、 5 友だち、性格 6 中国人、中国文化、日本と中国、 7 中間試験 復習 8 観光地で、ホテルで、レストランで、 9 お店で、街で、交通 10 あいさつ、お礼、おわび 11 約束、依頼 12 お祝い・励まし、慰め、お別れ 13 感情表現、教室用語 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』(東方書店)		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

(春) (春)	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじまって簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねる、ショッピングをするなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身につけていく。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、小テスト、期末テスト	

(秋) (秋)	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語中級へのステップアップを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>予定をたずねる、説明書を読む、手紙を読む等、より多様な場面で使用される文章を身につけていくとともに、基礎的な文法習得の仕上げをする。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

(春) (春)	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

(秋) (秋)	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅱ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 また、韓国語中級へのステップアップを目標とし、主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

(春) (春)	韓国語 I (コミュニケーション 1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの紹介 2. 母音字 (短母音、二重母音など) 3. 子音字 (平音、激音、濃音、鼻音、流音) 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第 1 課 基本文型 @は何ですか。@です。 8. 第 3 課 自己紹介 9. 第 5 課 否定文 10. 第 7 課 時間の表現 (曜日) 11. 第 9 課 過去時制 12. 第 11 課 電話の表現 13. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

(秋) (秋)	韓国語 II (コミュニケーション 1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語 I に引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第 13 課 注文 3. 第 13 課 提案表現 4. 第 15 課 交通 5. 第 15 課 目的表現、指示表現 6. 第 17 課 家族 7. 第 17 課 事実の確認 8. 復習(韓国歌・聞き取り練習など) 9. 第 19 課 誕生日 10. 第 19 課 同時、接続表現 11. 第 21 課 購入 12. 第 21 課 希望表現・可能表現 13. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

(春) (春)	韓国語Ⅰ (コミュニケーションⅡ)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの紹介 2. 母音字 (短母音、二重母音など) 3. 子音字 (平音、激音、濃音、鼻音、流音) 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第2課 基本文型 はい、@です。いいえ、@ではありません など。 8. 第4課 場所表現、敬語 9. 第6課 天気表現 10. 第8課 位置と数字(요 form) 11. 第10課 不規則動詞変化・漢数字 12. 第12課 買い物 13. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(秋) (秋)	韓国語Ⅱ (コミュニケーションⅡ)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第14課 交通手段 3. 第14課 理由、義務などの表現 4. 第16課 招待 5. 第16課 不規則活用、時間表現 6. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 7. 第18課 趣味 8. 第18課 お断り表現、理由・提案表現 9. 第20課 旅行 10. 第20課 連体形 11. 第22課 週末計画 12. 第22課 談話表現・未来時制 13. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(春) (春)	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 引用形 2 変則用言の復習 3 補助動詞지다 4 婉曲・感嘆・非難の語尾 5 意思表明の語尾 6 目的의리 7 間接疑問 8 感嘆形の군 9 던 10 아도/어도 11 것 같다 12 는데/는데 13 疑問詞の不定用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語3』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

(秋) (秋)	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念코까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 ぞんざいな命令、語尾-다가 9 根拠の提示 거든 10 助詞만 11 形容詞からの派生副詞、語尾-다면, -거나 12 まとめと復習 13 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

(春) (春)	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅲ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p> <p>また、ある程度まとまった文章を読んで日本語に翻訳する練習も行っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 引用形 2 変則用言の復習 3 補助動詞지다 4 婉曲・感嘆・非難の語尾 5 意思表示の語尾 6 目的의러 7 間接疑問 8 感嘆形の군 9 던 10 아도/어도 11 것 같다 12 는데/는데 13 疑問詞の不定用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語3』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

(秋) (秋)	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念을까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 ぞんざいな命令、語尾-다가 9 根拠の提示 거든 10 助詞만 11 形容詞からの派生副詞、語尾-다면, -거나 12 まとめと復習 13 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

(春) (春)	韓国語Ⅲ (コミュニケーション 1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 第21課 購入 3. 第21課 希望表現・可能表現 4. 第23課 薬局 5. 第23課 推測表現・連体形 6. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 7. 第25課 一日中の出来事 8. 第25課 要請表現 9. 第27課 夏休みの計画 10. 第27課 故郷紹介 11. 第29課 銀行 12. 第29課 両替・話題転換 13. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(秋) (秋)	韓国語Ⅳ (コミュニケーション 1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1課 自己の紹介 2. 第1課 受け身・引用文 3. 第3課 郵便局 4. 第3課 利用の順番 5. 第5課 かけ間違えた電話 6. 第5課 禁止の形容詞 7. 第7課 市場 8. 第7課 最上級表現 9. 第9課 事務室 10. 第9課 許容表現 11. 第11課 韓国語の学習 12. 第11課 予想表現・アレゴリー表現 13. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語 2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(春) (春)	韓国語Ⅲ (コミュニケーション 2)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第22課 週末計画 3. 第22課 談話表現・未来時制 4. 第24課 喫茶店 5. 第24課 お詫び表現 6. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 7. 第26課 喫茶店 8. 第26課 感嘆表現、感謝表現 9. 第28課 計画 10. 第28課 比較表現 11. 第30課 週末の出来事 12. 第30課 否定疑問文 13. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(秋) (秋)	韓国語Ⅳ (コミュニケーション 2)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第2課 教室 2. 第2課 状態変化 3. 第4課 新聞立ち売り場 4. 第4課 能力表現 5. 第6課 本について 6. 第6課 意見を話す 7. 第8課 廊下 8. 第8課 案内する・訂正する 9. 第10課 お正月 10. 第10課 当為表現 11. 第12課 街頭 12. 第12課 条件表現 13. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語 2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ (スペイン)	担当者	二宮、佐藤、浦部
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰは、前半から9回の授業分、主にスペインの言語・地理・文化に関する授業を二宮が行い、後の4回を2回ずつ佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。</p> <p>講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. 1492 8. フラメンコ 9. 闘牛 10. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配 11. 18、19世紀のスペイン 12. スペイン内戦とフランコ体制 13. スペインの民主化とヨーロッパ統合 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ (ラテンアメリカ)	担当者	佐藤・浦部
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないスペイン語圏を中心としたラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。</p> <p>前半の6回は佐藤が担当し、歴史と文化を中心にして論じ、後半の6回は浦部が担当して、地理と現代ラテンアメリカの課題を論じる。</p> <p>高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。</p> <p>春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。</p>		<p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入：「ラテンアメリカ」とは：そのイメージを問う 2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況 3 「アメリカの発明」：先コロンブス期のアメリカ大陸と征服 4 「ラテンアメリカ」の誕生と欧米列強 5 現代のラテンアメリカ文化 6 米国のラテンアメリカ系住民 <p>浦部担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 ラテンアメリカの地理と生活1：アンデス 8 ラテンアメリカの地理と生活2：アマゾン 9 ラテンアメリカの地理と生活3：アタカマ砂漠 10 現代ラテンアメリカの課題1：貧困と社会格差 11 現代ラテンアメリカの課題2：暴力と麻薬 12 現代ラテンアメリカの課題2：人権と民主主義 <p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 複数形のアメリカ：「アメリカス」へ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書 その他、授業中に指示する		期末テスト。小レポートの提出をもとめることがある。	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 I (ラテンアメリカ近現代史)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に 19 世紀末以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていく。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとしたい。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通じた一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。</p> <p>ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、秋学期に別の授業が用意されている。</p> <p>なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の所在 1 米国と向き合うラテンアメリカ 2 問題の所在 2 なぜラテンアメリカは「情熱」ということばでかたられるのか？ 3 メキシコ米国関係史 1 4 メキシコ米国関係史 2 5 メキシコ米国関係史 3 6 中米・カリブ海域と米国 1：米国の運河：ニカラグアとパナマ 7 中米・カリブ海域と米国 2：米西戦争と米国による中米・カリブ海支配 8 中米・カリブ海域と米国 3：米国からの自立の模索 9 権威主義体制から民主化へ(南米を中心に) 10 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティクスの展開 11 新しい「人種」カテゴリーの誕生：米国ラテンアメリカ系住民（ラティーノ） 12 現代ラテンアメリカにおける反「新自由主義」運動と対抗文化 13 まとめ：「もう一つの世界」は可能か 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究 I (ラテンアメリカの歴史と社会)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史（カリブ海域史も含まれる）の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカの特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。</p> <p>また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配領域（公式、非公式）であったラテンアメリカの自立の道のりを概観する。</p> <p>時期的には、先コロンブス期から現代ラテンアメリカの基本的特徴が確立する 19 世紀末～20 世紀初頭までを主な対象とする。ただし、現代ラテンアメリカの動向を履修者に常に注意を向けさせるよう、導入などで音楽や絵画、文学を紹介したい。なお、20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の所在：米国のヒスパニック化が問いかけていること 2 1492 年 コロンブスの新世界「発見」：レコンキスタからコンキスタへ 3 先コロンブス期のアメリカ諸文明 4 アステカとインカの征服 5 植民地支配の特徴 6 独立戦争 7 国家形成の模索 8 西欧列強のカリブ海地域支配：近代世界システムのゆりかご、カリブ 9 イギリス非公式帝国と米国の覇権 10 アジアとラテンアメリカの関係史 11 「ラテンアメリカ」の成立 ・人種混交と新たなエスニシティの誕生 12 「ラテンアメリカ的」とは 13 ラテンアメリカの世界史における位置 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ (ラテンアメリカの政治と社会)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。</p> <p>本講義の前半では、まずラテンアメリカのいくつかの代表的な国を取り上げ、その政治や社会の特色と多様性を具体的に学ぶ。そのことをふまえて、後半では、ラテンアメリカ全体に通じる政治・経済・社会の基本構図を(たんなる知識の羅列ではなく)論理的・総合的に理解するように努めていきたい。</p> <p>(※できるだけ秋学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)</p>		<p>I. 多様なラテンアメリカ世界 ——その政治・社会・文化の特徴——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンデス地域(ペルー・コロンビアなど) 2. ラブラタ地域(アルゼンチンなど) 3. ブラジル 4. メキシコ 5. 中米地域(グアテマラ・エルサルバドルなど) 6. カリブ地域(スリナム・ハイチなど) <p>II. ラテンアメリカの政治と社会の基本構図 ——その歩みと現代の諸問題——</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. ラテンアメリカ地域の成立 8. ラテンアメリカ諸国の近代化 9. 社会階層とポピュリズム 10. 国家発展と軍事クーデタ 11. 経済危機と民主化 12. ネオリベラリズムと貧困問題 <p>13. 授業のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ (ラテンアメリカ国際関係論)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても200年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。</p> <p>本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、麻薬やゲリラ、政治の不安定化など、現代ラテンアメリカで大きな争点となっている諸問題について知り、この地域が抱える21世紀の課題について考えていきたい。</p> <p>(※できるだけ春学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)</p>		<p>I. ラテンアメリカの国際関係史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロンブスとラテンアメリカ 2. 19世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ 4. 地域協調時代のラテンアメリカ <p>II. 米州域内の国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. ラテンアメリカの非核兵器地帯化 8. 米州機構と民主主義支援 <p>III. 現代ラテンアメリカの諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. アンデス諸国の麻薬問題 10. 経済グローバル化と貧困問題 11. 経済・インフラ統合と先住民問題 12. 左傾化するラテンアメリカ <p>13. 授業のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ (ラテンアメリカの経済と社会)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカ政治経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ラテンアメリカ地域の政治経済社会の歴史の変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、政治経済構造の変容について理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な政策課題を明らかにする。そしてこれらの政策課題に対する各国政府や国際機関の取り組みについて紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について、中心-周辺理論、構造学派、従属論、およびコスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）を中心に解説し、持続可能な開発のあり方について考える。</p> <p>5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代の下での日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について受講生全員で考え、討論する。主として講義形式で進め、テーマに応じてディスカッションをとり入れる。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の歴史の変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（—15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末—19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め—19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば—1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌—現在）</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>10. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策—コスタリカ・モデル</p> <p>12. 第4章 日本とラテンアメリカの関係</p> <p>13. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考書) 今井圭子編著 『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年、西島章次・細野昭雄編著『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004年。		授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ (ラテンアメリカ経済発展論)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカの経済を理解するためにまず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。それを踏まえて経済発展に関する主要な理論と政策、ラテンアメリカにおける主要な開発の思想、理論、政策について学習する。</p> <p>2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。</p> <p>3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。</p> <p>授業は、講義、関連文献の購読、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。</p>		<p>1. 序、第1章 第1節 経済学の基礎理論、用語解説</p> <p>2. 第2節 経済発展に関する主要な理論、政策</p> <p>3. 第3節 ラテンアメリカにおける経済発展の理論と政策</p> <p>4. 第4節 ラテンアメリカの経済開発と政治体制</p> <p>6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 経済概況 第2節 経済成長と所得分配</p> <p>7. 第3節 経済成長とインフレーション 第4節 財政・金融システムと通貨危機</p> <p>8. 第5節 雇用・格差・貧困問題</p> <p>9. 第6節 国際収支・対外債務・為替政策</p> <p>10. 第7節 第一次産業と土地所有制度</p> <p>11. 第8節 産業構造・企業構造・民営化 第9節 対ラテンアメリカ投資と技術移転</p> <p>12. 第3章 経済のグローバル化とラテンアメリカ経済 第1節 WTO・地域統合・自由貿易協定 第2節 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>13. まとめ—持続可能な開発を目指して</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考書) 石黒 馨編『ラテンアメリカ経済学—ネオ・リベラリズムを超えて』世界思想社、2003年、今井圭子編著『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年、今井・堀坂・斎藤共著『民主化と経済発展—ラテンアメリカABC3国の経験』上智大学、1997年、今井圭子『アルゼンチンの主要紙にみる日本認識』上智大学、2006年。		授業中に課したリアクション・ペーパーとさいごの授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ (スペイン語学)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、設定をする練習の場とも考える。</p> <p>今年度のテーマは「代名詞」とする。 まず、「代名詞」に関する疑問点を洗い出す。 次に、そのテーマに関する基本的な文献の講読を全員で行う。 その後、個人あるいはグループで、先の疑問点に関するひとつの答えをプレゼンテーションする。</p>		<p>① スペイン語の代名詞について (説明講義)</p> <p>② スペイン語の代名詞について (説明講義)</p> <p>③ 代名詞に対する疑問点の洗い出し</p> <p>④ 文献講読</p> <p>⑤ 文献講読</p> <p>⑥ 文献講読</p> <p>⑦ 文献講読</p> <p>⑧ 文献講読</p> <p>⑨ プレゼンテーションの準備</p> <p>⑩ プレゼンテーションの準備</p> <p>⑪ プレゼンテーション</p> <p>⑫ プレゼンテーション</p> <p>⑬ プレゼンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、プレゼンテーションによって評価する。	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ (スペイン語圏の言語文化)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。</p>		<p>① 「スペイン」と「スペイン語」1 “Glosas Emilianenses”</p> <p>② 「スペイン」と「スペイン語」2</p> <p>③ イスラム・スペイン “Jarchas”</p> <p>④ 「Cantar de Mio Cid」1</p> <p>⑤ 「Cantar de Mio Cid」2</p> <p>⑥ 1492 “Gramática de la Lengua Castellana”</p> <p>⑦ 「Don Quijote」1</p> <p>⑧ 「Don Quijote」2</p> <p>⑨ 闘牛</p> <p>⑩ フラメンコ1 García Lorca</p> <p>⑪ フラメンコ2</p> <p>⑫ スペイン内戦とピカソ</p> <p>⑬ 近現代のスペイン</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ (ブラジル研究)	担当者	矢澤 達宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？ サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人——これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとの程度まで合致しているであろうか？ また、一般的に流通しているこうしたキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？</p> <p>ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。</p> <p>この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. ブラジル概観：地域的多様性を中心に 3. 「ブラジル性」をめぐる議論 4. ブラジル史① 植民地支配 5. ブラジル史② 国家建設の軌跡 6. 多人種社会① 「人種の楽園」という神話 7. 多人種社会② 多文化主義へ：黒人をめぐる状況 8. 多人種社会③ アフロ・ブラジル文化 9. 多人種社会④ 先住民：保護と開発のはざままで 10. 多人種社会⑤ 日本人移民：そのアイデンティティ 11. こんにちの社会問題：スラムと土地なし民の運動 12. 国民文化① サッカー：国民的スポーツへの道 13. 国民文化② サンバ：貧民の文化から国民文化へ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。</p>		<p>基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数によっては、出席やリアクション・ペーパーなど平常点に一定の比重を置く可能性もある。</p>	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	担当	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。</p> <p>スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。</p> <p>情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD, DVD, インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。</p> <p>集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 情報を集めるテーマの選定 ② 文献の調査法・情報収集法 1 ③ 文献の調査法・情報収集法 2 ④ 文献の調査法・情報収集法 3 ⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1 ⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2 ⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑧ インターネット上の調査法・情報収集法 1 ⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 2 ⑩ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1 ⑪ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2 ⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3 ⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita. Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. La España prerromana. Los albores del arte español: <i>la cueva de Altamira</i> . 2. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas: <i>la Dama de Elche</i> . 3. La romanización y sus consecuencias. 4. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 5. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 6. la Alhambra de Granada y la Mezquita de Córdoba. 7. La Reconquista (ss.XI-XIII). Las ciudades medievales y el nacimiento de la burguesía. 8. Los orígenes del español. <i>El romancero</i> . 9. El arte románico (s. XI). 10. El arte gótico (s. XII). 11. La España de los Reyes Católicos (s. XV). La expulsión de los árabes y judíos. El Descubrimiento de América. 12. El humanismo. <i>La Celestina</i> (XVI). 13. La novela picaresca: <i>El Lazarillo de Tormes</i> (1554).	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. La asistencia a clase es importantísima.	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. La monarquía española de los Austrias (ss. XVI-XVIII), transformaciones sociales y políticas. 2. La literatura barroca: Góngora (1561-1627), Quevedo (1580-1645), Lope de Vega (1562-1635) y Calderón de la Barca (1600-1681). 3. La literatura barroca (continuación). 4. El arquitectura barroca (XVII). 5. El Greco (1541-1614). 6. Diego de Velázquez (1599-1660). 7. La Ilustración (XVIII): Francisco de Goya (1746-1828). 8. El Romanticismo (XIX). 9. El mito de <i>Don Juan</i> . 10. La crisis de 1898. La Generación del 98: Unamuno (1894-1936), Pío Baroja (1873-1956) y Valle Inclán (1866-1936). 11. La arquitectura de Antonio Gaudí (1852-1926). 12. Pablo Picasso (1881-1973). 13. Tema libre.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. La asistencia a clase es importantísima.	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、スペインとその旧植民地であったラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に発展を遂げてきたことから、その身体技法についても随所で言及する。クレオールをはじめ、文化混淆の概念がキーワードとなるため、前半の授業ではキューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素に再検討を加える。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、意見交換の場を設ける予定である。後半の準備期間においては、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も用意したいが、議論のベースは文化人類学に置く。単なる音楽紹介や知識の吸収にとどまらない演習の側面をもたせたい。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5. 先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを中心に 6. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望 7. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域 8. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ 9. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ 10. 英語圏、フランス語圏、ポルトガル語圏ほかの音楽 11. 移民(ラティノー、チカーノ、日系人)の音楽 12. 個人研究報告会 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布するほか、相談のうえ、その都度指示する。		評価方法: 平常授業における発表などの実績(40%)と期末レポート(60%)。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究IV (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、主としてラテンアメリカの社会と文化について、文化と国家との関係を中心に学んでいく。 スペイン語の知識は、あったほうが良いが、必ずしも必要ではない。むしろ、ラテンアメリカにおけるそれぞれの国の位置と基本的な知識が必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ラテンアメリカ社会における男と女 3. ラテンアメリカ社会における人種 4. ラテンアメリカ社会における先住民族 5. ラテンアメリカ社会における先住民族 (続き) 6. 先住民文化の位置づけ 7. 先住民文化と国民文化 8. 国民文化とは何か 9. 国民国家の形成と人種 10. 国家の統合とは何か 11. ラテンアメリカ社会におけるスペイン語教育の意味 12. ラテンアメリカの今後 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは当方で用意する。 参考文献は、その都度、授業内で指示する。</p>		<p>学期末に行なわれる筆記試験 (論述) で評価する</p>	

(春) (春)	中国研究入門	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国を考える上での基礎知識を身に付けるとともに、将来研究する人にとってはその手がかりを得られるよう、中国の基本的な成り立ちについて幅広く調べていく。</p> <p>できるだけ、現在起きている事象、具体的な事件を取り上げ、抽象論ではなく、実証的に現実の中国にアプローチする。</p> <p>まず歴史的な視点から中国の成立について考える。政治や経済、社会の基本的な構造を押さえたうえで、文学、映画、人口、環境、科学などについてみていく。</p> <p>その上で、中国を構成する民族、宗教、言語、習慣などについても考察する。</p>		<p>1 中国を知るために</p> <p>2 政治の動向（社会主義体制）</p> <p>3 経済体制の変化（市場経済化）</p> <p>4 大国化の背景</p> <p>5 文学と社会の関係</p> <p>6 映画</p> <p>7 人口問題</p> <p>8 環境問題</p> <p>9 科学問題</p> <p>10 シルクロード</p> <p>11 少数民族の不思議な世界</p> <p>12 地域の特徴</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書</p> <p>上村幸治著『中国路地裏物語』岩波新書</p>		出席、レポート、試験など	

(秋) (秋)	中国研究Ⅰ（中国社会学論）	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国社会学の現状、特質について実証的に調べていく。できるだけ具体的な社会事象や事件を取り上げながら、中国社会学の様相を考えたい。</p> <p>具体的には中国の最近の文学作品やニュースなどを紹介しながら、その背景をさぐっていく。</p> <p>そのためにメディア（新聞、雑誌、テレビ）やソフト（映画、アニメ、マンガ）などを使う。</p> <p>中国のベストセラー作品から中国社会学の変動を考えたり、マフィアの実態を通して中国社会学の裏側を考察したりもする。</p> <p>マスコミ、インターネット、犯罪、女性問題など幅広いテーマを通して、中国社会学についての考察を深めていきたい。</p>		<p>1 中国社会学について</p> <p>2 社会構造、階級と階層</p> <p>3 汚職と腐敗</p> <p>4 黒社会と政治の関係</p> <p>5 マスコミのおかれた状況</p> <p>6 テレビ番組</p> <p>7 中国とアニメの関係</p> <p>8 インターネットの力</p> <p>9 女性問題（上）</p> <p>10 女性問題（下）</p> <p>11 教育問題</p> <p>12 社会現象</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書</p> <p>上村幸治著『中国路地裏物語』岩波新書</p>		出席、レポート、試験など	

(春) (春)	中国研究Ⅱ (中国の思想・文学)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座の DVD を利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範(社会的な人格の形成)を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のものであります。とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組では論語を非常に分かりやすく(中学生にも分かるように)解説されています。</p> <p>授業では、中国語発音に中国語の字幕のついた DVD を使用しますので中国語の読解力が求められます。授業の進捗は学生に合わせて変更することがあります。</p> <p>『論語』本文に関する参照サイトは下記です。 http://www5.ocn.ne.jp/~bushido/rongo.htm http://rongo.jp/kaisetsu/kaisetsu00.html</p>		<p>1回 ガイダンス、『論語』および『論語心得』について</p> <p>2～4回 「交友之道」 よい友達つきあいとは何でしょうか？ 孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達つきあいの重要性について学びます。</p> <p>5～7回 「理想之道」 人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？ 理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子のことばから探っていきます。</p> <p>8～10回 「処世之道」 複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？ 社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。</p> <p>11～13回 「人生之道」 孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1 『論語新釈』宇野哲人 講談社学術文庫 1350 円 2 テレビ番組『論語心得』講演原稿：授業で配布</p>		出席率、授業への取り組み、期末試験によって評価します。	

(秋) (秋)	中国研究各論Ⅳ (中国の芸能・芸術)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>台湾で放映され、金賞を受賞した中国大陸紀行番組である『八千里路雲和月』を教材に使用します。</p> <p>この番組は中国大陸の風土と民族文化を紹介したもので、名司会者である凌峰が中国各地を旅行して収録されました。名所旧跡の紹介、現地の人々に対するインタビューなどから構成されています。</p> <p>この授業ではシリーズの中から、特に中国の民俗芸能と芸術に関する内容を取り上げます。授業を通して中国各地の風土民情にふれ、中国の民間芸術・芸能に対する理解を深めることを目標とします。</p> <p>中国語発音に中国語の字幕のついた DVD を使用しますので中国語の理解力が求められます。</p> <p>授業では最初に各単元について簡単に解説をしてから、番組を鑑賞し、最後に内容を日本語で確認していきます。</p>		<p>1. ガイダンス、『八千里路雲和月』について</p> <p>2. 湖南：洞庭湖と岳陽楼、馬王堆古墳</p> <p>3. 陝西：半坡遺跡、安塞腰鼓</p> <p>4. 河北：吳橋雜技、長城</p> <p>5. 貴州：茅台苗塞敬酒歌、苗姑娘挑花場</p> <p>6. 安徽：九華山(1)、(2)</p> <p>7. 吉林：長春電影節、吉林</p> <p>8. 江西：景德鎮、中国功夫</p> <p>9. 河南：河南[木邦]子、少林寺</p> <p>10. 広東：客家山歌、佛山陶磁</p> <p>11. 上海：四行倉庫、魯迅</p> <p>12. 天津：楊柳青年画、泥人張</p> <p>13. 北京：児童京劇比賽、故宮</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料は授業中に配布します。		出席率、授業への取り組み、期末試験によって評価します。	

(春) (春)	中国研究Ⅲ (中国史 a)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 清朝体制の光と影 2 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 3 太平天国 4 体制の反撃 5 洋務運動 6 中体西用の諸相 7 開港場の社会と経済 8 農村社会の変容 9 周辺地域宗主権の喪失 10 日清戦争 11 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 12 変法改革と戊戌の政変 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
菊池秀明『中国の歴史 10 ラストエンペラーと近代中国 清末 中華民国』講談社、2005年。		期末試験による。	

(秋) (秋)	中国研究Ⅳ (中国史 b)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 義和団の蜂起 2 纏足問題と天足運動 3 革命派の台頭 4 地方自治の試み 5 王朝体制の崩壊 6 民国の混迷 7 五四運動 8 第一次国共合作 9 北伐と南京国民政府の成立 10 国民政府の近代化政策 11 民国期の農村社会 12 民国期の非漢族社会の動向 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
菊池秀明『中国の歴史 10 ラストエンペラーと近代中国 清末 中華民国』講談社、2005年。		期末試験による。	

(春) (春)	中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a）	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国が経済発展にともない、世界の大国として存在感を強めている。米国メディアの中には超大国と呼ぶところも出てきた。アジアの巨大途上国の台頭を、21世紀の世界史的イベントだと指摘する声も出ている。</p> <p>同時に、社会の混乱や環境破壊、軍拡に懸念を示す声も出てきた。発展する沿海工業地帯と貧しい内陸の農村地帯の経済格差も大きな問題になっている。</p> <p>ナショナリズムの台頭は、反日デモや米国批判という形で火を噴いている。</p> <p>日本との貿易が急増するなど、日本との経済交流も深まっている。</p> <p>現代の中国を多角的にとらえるため、アヘン戦争以来の歴史を踏まえ、政治や外交や経済、文化の実態を見ていこうと思う。</p> <p>その上で、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考えたい。</p> <p>春学期は歴史も踏まえながら、現代中国の実態に迫ろうと思う。秋学期は、現在の中国の表情、この国のかかえる問題点について具体的に見ていく。</p>		1 はじめに（現代中国の実像） 2 香港の変遷（アヘン戦争と近代史） 3 日中関係（上） 4 日中関係（下） 5 大国中国の台頭 6 朝鮮半島と中国 7 共産党と国民党 8 社会主義化がもたらしたもの 9 文化大革命の実像 10 改革開放から市場経済化への道 11 天安門事件と民主化 12 台湾問題の本質 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
「教材」上村幸治著『中国路地裏物語—市場経済の光と影』岩波新書、上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書		出席、レポート、試験による	

(秋) (秋)	中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b）	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		1 市場経済のもたらしたもの 2 都市部の変貌 3 農村の課題 4 巨大プロジェクト 5 環境問題 6 経済格差と階層社会の出現 7 教育問題 8 医療や社会保障 9 選挙と民主化 10 政治システム 11 中台関係 12 国際社会の中の中国 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	中国研究各論Ⅲ (日中交流史)	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。</p> <p>唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。</p> <p>そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。和製漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。</p> <p>中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。</p>		<p>1 漢字・漢語の移入、仮名の発明</p> <p>2 漢字文化圏</p> <p>3 「訓」と「音」</p> <p>4～6 中国語における外来語</p> <p>6・7 中国語における日本語由来の外来語</p> <p>8 漢字と中国語の語彙が日本語の書き言葉を育む</p> <p>9 梁啓超・嚴復</p> <p>10・11 “経済、社会、哲学、文化、文学”等々の社会科学・人文科学の術語</p> <p>12 “信、達、雅”(嚴復)</p> <p>13 日本を通して間接的に西洋を学ぶ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。	

(秋) (秋)	中国研究各論Ⅴ (言語文化論)	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。</p> <p>日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。</p>		<p>1 中国語とは？普通話、汉语、华语、国語 漢字文化圏(=漢語文化圏)</p> <p>2 現代中国語の音韻</p> <p>3 華人と中国語の比喩</p> <p>4 中国人のコミュニケーションの特色</p> <p>5 中国人の「色」</p> <p>6 ことわざ・歇後語</p> <p>7 “既成の言い回し”描写表現</p> <p>8 東西南北、右左</p> <p>9 日本語母語話者ゆえの誤謬</p> <p>10 飲食に関する言葉</p> <p>11 中国人の名前・命名</p> <p>12 自尊心・コネ社会・宗教</p> <p>13 「漢文」の時代の中国語と現代中国語</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。	

(春) (春)	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a）	担当者	嚴 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞洲意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性。</p> <p>受講條件：b も履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、日中民族の淵源與發展 2、日中佛教及信仰研究 3、日中漢字文化比較 4、日中社會結構比較 5、日中家庭比較 6、日中學校教育比較 7、日中神話比較 8、日中節日祭祀比較 9、日中園林比較 10、日中服飾比較 11、日中城市比較 12、日中兩性社會比較 13、日中姓名比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
自編教科書。参考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。		評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など	

(秋) (秋)	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b）	担当者	嚴 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞洲意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性，增強在異文化交流中的各項素質修養。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、日中茶文化比較 2、日中料理比較 3、日中美術比較 4、日中音樂比較 5、日中漫画比較 6、日中方言比較 7、日中成語比較 8、日中流行語研究 9、日中民間故事比較 10、日中古典詩歌比較 11、日中小說比較 12、日中電影比較 13、日中酒文化比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
自編教科書。参考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。		評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など	

(春) (春)	中国特殊研究Ⅲ (中国文学研究古典)	担当者	巖 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、中国の古典文学を学ぶことを通して、文化や学術、社会状況などについて理解を深め、中国文学全体に対する関心を広げることが、目的とする。講義内容は、主として韻文文学を取り上げる。漢代、六朝の樂府や古詩から唐代の詩、宋代の詞まで、代表的な詩人と詞人、曹操・陶淵明・王昌齡・李白・杜甫・李商隱・杜牧・李煜・柳永・歐陽修・蘇軾・李清照・陸遊・辛弃疾などの作品を読み解きながら、平仄・對仗・押韻など中国韻文特有の技巧や規則の發展と変容を追跡し、その文学としての意義を考える。</p> <p>受講条件：研究Ⅳも履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、中国文学の起源と特徴 2、中国文学の種類と發展 3、漢代、六朝の樂府や古詩 4、漢詩の音韻、平仄、押韻 5、唐代の詩・初唐詩人 6、唐代の詩・李白 7、唐代の詩・杜甫 8、晚唐詩人・李商隱、杜牧 9、唐五代詞人・李煜 10、宋代詞人・柳永、歐陽修、蘇軾 11、宋代詞人・李清照、陸遊、辛弃疾 12、明清の文学 13、日本の漢文學・江戸漢詩人 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。参考書：八木章好《中国語で巡る：漢詩と三国志の旅》，朝日出版社，2008 初版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

(秋) (秋)	中国特殊研究Ⅳ (中国文学研究現代)	担当者	巖 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、『五四運動』後の中国現代文学を、代表的な作家の作品を読み解く作業を通して、その社会における意味を検討する。まず魯迅・郭沫若・茅盾・巴金・老舍・曹禺などの代表作を紹介し、当時の社会や讀者個人にも強い文化衝撃と意識変革を検証する。また、1949年後に小説創作を始めた新世代の作家たち、たとえば王蒙・高曉聲・陸文夫・王安憶・張潔などの小説を閲讀して、中国の新しい文学を了解しました。さらには当代作家によって表現された、いわば現在進行形の中国を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、中国現代文学の發生 2、近代日本文学の影響 3、魯迅の小説 4、郭沫若の詩歌 5、茅盾の小説 6、巴金の小説 7、老舍の小説と北京話 8、曹禺の劇作品 9、王蒙・高曉聲の小説 10、陸文夫と江南文学傳統 11、王安憶・張潔と中国女性文学 12、中国現代文学の特徴 13、日中文学の交流 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。参考書：朱棟霖《中国現代文学史》，北京大学出版社，2007 年版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

(春) (春)	韓国研究入門	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代韓国への旅</p> <p>本講座は、韓国研究のための最初の一步である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。</p> <p>履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 朝鮮半島を知ろうー旅の準備 2 韓国の若者と出会う 3 韓国のインターネット事情 4 韓国大衆文化事情ーKpop の世界へ 5 グローバルシティ・ソウルと「外国人」 6 韓国のなかの「日本」 7 政治から文化へ 8 ソウル・オリンピック 9 朝鮮半島とアメリカ 10 独裁政権と民主化の記憶 11 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし 12 「朝鮮近代史と日本」について考える 13 まとめー再び日本へ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する予定。		出席、中間レポートおよび期末テスト。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	韓国研究 I (韓国史)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは朝鮮半島の歴史についてどれぐらい知っているだろうか。また、どれぐらい知らないだろうか。本講義では朝鮮半島の歴史を通史的に論じていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション～古朝鮮から三韓 2 高句麗、百濟、新羅 3 高麗の成立と展開 4 李氏朝鮮の成立と展開 5 朝鮮近代社会 6 植民地支配下の朝鮮 (1) 7 植民地支配下の朝鮮 (2) 8 解放と分断 (1) 9 解放と分断 (2) 10 韓国の軍事政権と韓国社会 11 韓国の民主化と経済発展 12 南北関係の変化 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	韓国研究各論Ⅰ（韓国社会各論 a）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は朝鮮半島分断の歴史と現状を、政治的観点にとどまらず「日常」の視点から概観するものである。分断社会における「日常のなかの分断」、メディアにおける分断の表象から国際社会のなかの「分断」まで、単なる国際政治の枠組みとしてのみ「分断」を語るのではなく、「分断」とは朝鮮半島に住む人々やその日常にとってなにを意味するのか、どのようなかたちで日常にあらわれているのかを考察することに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 イントロ 2 朝鮮半島分断の背景 3 朝鮮戦争① 4 朝鮮戦争② 5 世界情勢と朝鮮半島① 6 世界情勢と朝鮮半島② 7 アジアと朝鮮半島① 8 アジアと朝鮮半島② 9 日本と分断朝鮮① 10 日本と分断朝鮮② 11 南北の社会① 12 南北の社会② 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

(秋) (秋)	韓国研究Ⅱ（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国社会とジェンダー」にテーマをしばって現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には積極的な授業参加が望まれる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 イントロ-韓国現代社会とジェンダー 2 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観① 3 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観② 4 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③ 5 ジェンダーと制度① 6 ジェンダーと制度② 7 労働とジェンダー 8 軍隊とジェンダー 9 歴史とジェンダー① 10 歴史とジェンダー② 11 表象される女性たち① 12 表象される女性たち② 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席、期末テスト	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の様々な様相を学ぶ。 10回までは、様々な韓国語の様相を軸に講義をする。 講義の途中で韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11回以降には、韓国語に関するテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅳ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 訓民正音創製の意義 3. 語彙の構造(固有語・漢字語・外来語) 4. 言葉づかいと人間関係(1) 5. 言葉づかいと人間関係(2) 6. 言葉とジェスチャー 7. 韓国と北朝鮮の言葉の違い 8. 若者の言葉 9. 韓国の方言 10. ネット言語 11. 発表 12. 発表 13. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適当な資料を配布		出席 100%、チーム別(5-6人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

(春) (春)	韓国研究各論Ⅱ (韓国社会各論b)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをはっきりとすることを目的とする。</p> <p>まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国の歴史、政治 (1) 2. 韓国の歴史、政治 (2) 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 韓国の経済成長 (1) 7. 韓国の経済成長 (2) 8. 工業化パターンー日本モデル 9. 輸出指向型経済成長戦略 10. 成長過程の社会変容 11. 韓国の財閥 12. 開発と社会変化 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂、2005年。大宮正史『韓国ー民主化と経済発展のダイナミズムー』ちくま新書、2003年。		出席状況と試験で評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	韓国特殊研究Ⅱ (日韓比較文化論b)	担当者	金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国(両地域)の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 書堂と寺子屋 2. 三国時代の教育と文化 3. 高麗時代の教育と文化 4. 朝鮮時代の教育と文化 5. 植民地支配の教育政策 6. 植民地支配の国語教育 7. 日韓生涯教育と社会 8. 日韓ジェンダー教育① 9. 日韓ジェンダー教育② 10. 日韓女性の教育 11. 韓国における日本語教育の歴史 12. 日本における韓国語教育の歴史 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。</p>		<p>積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。</p>	

(秋) (秋)	韓国研究各論Ⅲ (日韓交流史)	担当者	金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国の歴史の流れ 2. 王仁博士と漢文 3. 日本の中の百濟文化 4. 高麗時代の社会状況 5. 『三国史記』と『三国遺事』 6. 朝鮮通信史 7. 豊臣秀吉と李舜臣 8. 申叔舟と雨森芳洲 9. 安重根と伊藤博文 10. 日韓併合 11. 浅川巧と韓国 12. 朝鮮戦争と日本 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。</p>		<p>最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価。</p>	

(春) (春)	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>朝鮮半島の近代史を学ぶ。 韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に 2001 年から歴史コラムとして連載され、2003 年に単行本化されてからもベストセラーとなり話題を呼び続けている韓洪九『大韓民国史』（日本語訳は(6)を参照）を軸に講義をする。 10 回までは、韓洪九『大韓民国史』を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11 回以降には、韓国の近代史のなかテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅲ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(1) 3. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(2) 4. 大韓民国の歴史的正当性 5. 単一民族神話 6. 「兵営国家」韓国(1) 7. 「兵営国家」韓国(2) 8. 「兵営国家」韓国(3) 9. 「親日派」問題(1) 10. 「親日派」問題(1) 11. 発表 12. 発表 13. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史韓国とはどういう国か』、平凡社、2003 年 韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005 年		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

(秋) (秋)	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国の宗教を通じて派生された様々な文化を学んでいく。 10 回までは、韓国の様々な宗教を軽く触って、建国神話・文学、思想・イデオロギー、生活習慣などの様相を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11 回以降には、韓国の宗教と関連があるテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅳ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 韓国の宗教と伝統文化 3. 韓国の民俗信仰と巫俗 4. 節季風俗 5. 韓国の仏教文化 6. 韓国の儒教文化(1) 7. 韓国の儒教文化(2) 8. 韓国のキリスト教(1) 9. 韓国のキリスト教(2) 10. 韓国の風水思想 11. 発表 12. 発表 13. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適当な資料を配布		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

(春) (春)	韓国研究各論VI (韓国文化各論 c)	担当者	金 貞我 (キム・ジョンア)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今学期の韓国文化論のテーマは「しぐさと姿の朝鮮文化―描かれた朝鮮文化を読む」である。特に朝鮮時代中期(18世紀)以降の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。</p> <p>授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚(図像)資料からアプローチすることが主な内容である。</p>		<p>1、韓国の時代区分と歴史の概要</p> <p>2、姿の朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の表象―封建社会の理想の女性像 ・ 立身出世の表象―寺小屋と科挙 ・ 妓女の姿と上流社会 ・ 装身具と服飾が象徴する身分社会 <p>3、しぐさの朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食文化と食事作法 ・ 片立膝と正座 ・ 顔を隠す女性・扇をかざす男性 ・ いただく女・背負う男―労働する庶民 <p>4、儀礼の朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通過儀礼と士大夫文化 ・ 民間信仰 <p>※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に行うテストと定期試験を総合して評価する。	

(秋) (秋)	韓国特殊研究III (文献読解)	担当者	金 貞我 (キム・ジョンア)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代韓国語文献の読解力強化を目的とする。今学期は、韓国の著名な国文学者であり、文化評論家でもある李御寧氏の『축소지향의 일본인』(『縮み志向の日本人』)を取り上げ、全巻を読み通す。氏の著書は韓国文化との比較の方法で日本文化の特異性を論じている。同書の流麗な文章や明確な論点から学ぶ韓国語の読解力とともに、日・韓比較文化論関連表現や専門用語の習得をも図る。中級以上の韓国語の知識が要求される。</p>		<p>全6章を読み通すことを目標とし、各章ごとにおける特殊表現、専門的用語などをまとめながら、全体の内容を掴む訓練を重ねる。各章を課題として分担・発表し、その内容を学期末のレポートとして提出することが求められる。</p> <p>第1章 日本文化論の出発点 第2章 縮み思考の六つの模型 第3章 自然物に表われた縮みの志向 第4章 人間と社会に表われた縮みの文化 第5章 産業に表われた縮みの文化 第6章 拡大志向の文化と今日の日本</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 李御寧『축소지향의 일본인』文学思想社 ・ 『「縮み」志向の日本人』講談社(学術文庫)、2007 ・ その他に、随時参考資料のコピーを配布する。 		出席と平常点を重視する。授業中に出される課題の達成度と授業参加の積極性を総合評価する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	韓国研究情報収集法	担当者	金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3-4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。</p> <p>*韓国語を理解するものに限る。</p> <p>注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ハングルのタイピング練習① 3. ハングルのタイピング練習② 4. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 5. 資料調査発表① 6. 資料調査発表② 7. 現地調査発表①川崎市（桜本）、 8. 現地調査発表②東京（新大久保） 9. 現地調査発表③インタビュー 10. 現地調査発表④設問、アンケート 11. インターネット調査発表（ハングル）① 12. インターネット調査発表（ハングル）② 13. まとめ <p>注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		主に調査、発表の取組、研究成果の課題レポートで評価する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a）	担当者	金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>* 参加型授業による人数制限をする。(50名まで) 注意: はじめの授業で討論会のテーマごとにグループ分け、発表担当者を決めるので必ず出席すること。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の祭祀風習 5. 韓日の民俗信仰 6. 韓日の家族 7. 韓日の食文化① 8. 韓日の食文化② 9. 韓日の住生活 10. 韓日の服飾 11. 韓日の村落 12. 韓日の福祉レジーム 13. 日韓比較文化討論会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。</p>		<p>授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。</p>	

(春) (春)	日本研究 I (日本文学古典)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。</p> <p>講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味を持つようなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話・ヤマトタケル物語、風土記の大伴サデヒコ伝説を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。</p>		<p>1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマトタケル物語を読む① 6 ヤマトタケル物語を読む② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 11 大伴サデヒコ伝説を読む① 12 大伴サデヒコ伝説を読む② 13 まとめ</p> <p>授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト なし 参考文献 授業時に指示する</p>		試験・レポート・出席の総合点によって決める。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目標) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する</p> <p>(講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しやさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。</p> <p>(受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上</p> <p>重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他</p> <p>第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上</p> <p>浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 他</p> <p>第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回①原作を映像で見る 第13回② 同上</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席。レポート。定期試験。	

(春) (春)	日本研究Ⅲ (日本史 a)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられたように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。</p> <p>そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 日中戦争と対米英戦争 3 真珠湾からか、コタバルからか 4 被害の問題①—空襲は何を示すか 5 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 6 加害の問題①—731 部隊とは何か 7 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 8 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 9 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 戦時下の社会①—天皇制と国家神道 12 戦時下の社会②—戦争への動員・協力と抵抗 13 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定	

(秋) (秋)	日本研究Ⅳ (日本史 b)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。</p> <p>秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2 本土決戦と日本の戦争の終わり方 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 日本とドイツの戦後補償① 7 日本とドイツの戦後補償② 8 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 9 日中国交回復への道のり 10 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 11 アジアの民衆からの戦後補償要求 12 戦後 50 年の国会決議をめぐって 13 過去の戦争と現代の戦争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定	

(春) (春)	日本研究Ⅴ (日本経済論 a)	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p> <p>なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果 (通年講義は春期・秋期の合計) で評価する。相対評価方法を採用。	

(秋) (秋)	日本研究Ⅵ (日本経済論 b)	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで近年たまたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにその後の状況を検討したい。</p> <p>なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. スタグフレーションとその原因 3. レーガノミクスとアメリカ経済 4. プラザ合意後の経済変化 5. バブル経済の発生とその原因 6. バブル経済の崩壊 7. 平成不況の特徴 ー複合不況ー 8. 「失われた10年」とその意味 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 小泉内閣の構造改革を問う(1) 12. 小泉内閣の構造改革を問う(2) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春期と同じ。		春期と同じ。	

(春) (春)	日本研究Ⅶ (日本文化論)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。</p> <p>文化とは、「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。</p> <p>「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。</p>		<p>〈各回講義のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 2 日本文化の歴史的複合重層性 3 日本は閉鎖的な国か？ 4 「日本」はいつから「日本」か？ 5 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 6 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 7 ものの行き来、人の行き来 8 日本人の振る舞い…正直・清潔・契約 9 律令の輸入…「天皇」と「国家」 10 「鎖国」…開かれていた国「日本」 11 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 12 「日本人」の暮らしと死生観 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【参考文献】日本史年表と国語便覧(大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの)</p>		<p>学期末試験(論述式)の成績による。</p>	

(秋) (秋)	日本研究各論Ⅰ (民俗芸能)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。<u>無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観</u>もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。</p> <p>日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存しているが、そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点から東西日本の様々な民俗芸能を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「振り(演出)」の実際がどう機能しているかに留意する。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 2 日本文化の複合重層性と「見えないもの」 3 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭 4 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能Ⅰ 5 異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能Ⅱ 6 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊りⅠ 9 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊りⅡ 10 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト 11 年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」 12 年齢階梯と芸能②…兵庫県の宮座 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『日本の伝統芸能』錦正社、(税込 3,500円) ISBN4-7646-0109-5 参考文献は随時教室で示す。</p>		<p>数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績</p>	

(春) (春)	日本研究各論Ⅱ (企業経営)	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。</p> <p>日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるのみならず、市場からの消滅の恐れこそある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業における IT 戦略 13. 日本型企业システムの変容 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	日本特殊研究Ⅰ (民俗学)	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民俗とは民間に伝承されてきた生活文化であり、日本民俗学は、その歴史的変遷、もしくは、民俗を資料として日本文化の構造などを明らかにし、研究成果を現在に活かすことを目的としている学問である。</p> <p>したがって、本講義では、民俗学の基礎的な理論と日本文化の多様性の把握を目的として、人間が生きていくために最も切実な問題である食の確保、すなわち、生業を基盤として、そこから設定された文化類型に沿って、ヒトとヒト・ヒトとカミ・ヒトと自然との関わりを、文献や音声・映像などの具体的資料を提示しながら講義したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 民俗学とは／日本人の民俗的世界概念 3 海上の道／稲を選んだ日本人 4 海民の生活と文化 5 稲作民の生活と文化 6 餅なし正月と雑穀・畑作文化 7 山民の生活と文化 8 山と海の交流 9 都市の民俗文化 10 学校の怪談／妖怪と幽霊 11 カミとヒト／アニミズム 12 女性と子どもと老人の民俗文化 13 授業時試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

(秋) (秋)	日本研究各論Ⅲ (地域文化)	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>正月には神社に参拝をし、盆に寺で死者供養を行ない、クリスマスイベント化している日本人の姿は、成立宗教をあつく信仰している人びとに奇異なものとして映じているであろう。しかし、仏教を帰化させ、さまざまな仏を「神」として信仰してきた日本人にとっては、そういった信仰のあり方はむしろ当たりマエなのであり、「神」という語から想起されるイメージも一様ではない。</p> <p>本講義では、そうした信仰のあり方の表象として儀礼・芸能を捉え、それらを通して日本人の信仰の在り方を把握することを目的として、文献や音声・映像などの具体的資料を用いて、日本の民間信仰を、それが伝承されている地域との関わりから把握し、検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 祭り・儀礼・芸能の概念と構造 3 神懸かりと巫女神楽 4 山伏神楽と修験道 5 宗教者と芸能 6 予祝儀礼①—小正月の訪問者 7 予祝儀礼②—モノマネ・モノヅクリ 8 田植え儀礼 9 災厄防除儀礼／鎮送呪術 10 収穫祭と田の神送り 11 宴会と芸能 12 特定小地域での祭り・儀礼・芸能の在り方 13 授業時試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

(春) (春)	日本研究各論Ⅳ (古典芸能)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。その意味で日本の「古典芸能」は意図的に民衆の心の動きを表現し、維持・伝承してきた。</p> <p>日本における「芸能」の概念が歴史的にどう形成されたかを講義した上で、各分野における古典芸能の粋を鑑賞し、それぞれの分野で日本的な「美」がどのような価値観に支えられて表現されているかを分析し、講義する。</p> <p>具体的には「雅楽」「歌舞伎」「文楽」「能・狂言」「相撲」「箏曲・地唄」「長唄」「日本舞踊」「茶道」「華道」「古典落語」等を取りあげ、映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「振り(演出)」の実際がどう機能しているかに留意する。</p> <p>なお、4～7月に歌舞伎・文楽・日本舞踊・落語の鑑賞(参加費各回 1500～2000円)を行う。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 2 「日本」における「古典」と「芸能」 3 雅楽…「音楽」の「古典」という幻想 4 歌舞伎…派手と粋、世話と人情 5 文楽…人形の表現、声の表現 6 能・狂言…「幽玄」とは何か? 7 相撲…「芸能」と「スポーツ」と 8 箏曲・地唄…庶民の教養・情操 9 長唄…芝居と音楽的独立と 10 日本舞踊…「所作」と「ふり」と 11 茶道・華道…わび茶と生け花 12 古典落語…庶民の生活と「ことば」 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でその都度指示する		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言うまでもないことだが、現代の日本が先進国の一員として国際社会にいられるのは、19世紀後半に明治維新を経て近代化に成功したからである。それから1世紀以上を経て、グローバル化の渦中にある現在、日本が如何にして近代化を進めて国際社会に躍り出るに至ったかを振り返ることは意味があるだろう。この講義では日本の近代化の実相を理解するために必要な文献の購読をする。</p> <p>具体的にはイザベラ・バード著『日本奥地紀行』（高梨健吉訳、平凡社ライブラリ）を読み進め、都市における「文明開化」と東北地方における江戸時代とほぼ変わらぬ暮らしとの対比をすることで、明治時代の近代化がどのように進み、現代へと至っているかを理解する。授業は演習形式で学生諸君に分担してもらい、『日本奥地紀行』の年記と記事内容を、当時の風俗や地理、文化的な様相、同時に日本で起きている社会変革の諸事象等と比較し、平行して理解していく方策を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（参考文献の提示、発表順） 2 概説（イザベラ・バード、近代化、時代） 3 発表① 4 発表② 5 発表③ 6 発表④ 7 発表⑤ 8 発表⑥ 9 発表⑦ 10 発表⑧ 11 発表⑨ 12 発表⑩ 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『日本奥地紀行』（税別 1500 円）ISBN4-582-76329-4【参考文献】『イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む』宮本常一、平凡社ライブラリ、（税別 1,200 円）ISBN4-582-76453-3 その他多数あるので教室で示す</p>		発表の成果と学期末試験（論述式）の成績による。	

(春) (春)	日本特殊研究Ⅲ (写本を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本の古典、あるいは近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献(版本を含む)を読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力)を、写本類を読むことで養う。</p> <p>具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世期に記された文芸(物語・和歌類)・地方文書・実用書(版本)等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。</p> <p>さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。</p> <p>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 2 概説(日本の筆写・出版の歴史) 3 変体仮名演習① 4 変体仮名演習② 5 変体仮名演習③ 6 変体仮名演習④ 7 和歌を読む① 8 和歌を読む② 9 物語を読む① 10 物語を読む② 11 文書を読む① 12 文書を読む② 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『古文書検定入門編』柏書房(税別1,200円) ISBN4-7601-2799-2 参考図書『宮内庁書陵部書庫渉猟一書写と装訂一』おうふう(税別3800円) ISBN4-273-03396-8,</p>		<p>数回の提出物、および学期末試験の成績による。</p>	

(秋) (秋)	日本特殊研究Ⅳ (碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類(墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等)を読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・日本漢文・経文・梵字等)を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高める。</p> <p>具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を影印・拓本・写真などで示して読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い報告することを課する。</p> <p>変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。</p> <p>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入、変体仮名読解試験 2 概説(石碑の種類・刻まれた文字達) 3 日本漢文体読解練習 4 経文読解練習 5 梵字読解練習① 6 梵字読解練習② 7 墓碑銘を読む① 8 墓碑銘を読む② 9 記念碑を読む 10 歌碑・句碑を読む① 11 歌碑・句碑を読む② 12 供養碑を読む 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『古文書検定入門編』柏書房(税別1,200円) ISBN4-7601-2799-2 他の文献については教室にて示す。</p>		<p>数回の提出物、およびレポート(碑文の採集)の成果による。</p>	

(春) (春)	多言語間交流研究Ⅰ (言語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域(考古学・医学・物理学・電子工学・数学)における言語研究にも言及する。</p> <p>参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする。</p>		<p>第1回目 話し言葉と書き言葉：言葉は約束事 ー言語学の研究対象, 言語を記録する体系, ローマ字表記</p> <p>第2回目 動物の言語と人間の言語：チンパンジーも言葉が話せる？ ーWashoe, Sarah, Ai, Kanji に見る動物のコミュニケーション</p> <p>第3回目 言語と脳：失われた言葉を取り戻す ー心理言語学と大脳生理学</p> <p>第4回目 子供の言葉の発達：どのようにして言語を習得するか？ ー第1言語の発達過程</p> <p>第5回目 外国語の上達：どのようにしたらうまく話せるようになるか？ ー第2言語の習得理論</p> <p>第6回目 音と音声 (1) : カテゴリーができるまで ー調音音声学と音韻論</p> <p>第7回目 音と音声 (2) : 音声はどのように聞こえるか？ ー音響音声学</p> <p>第8回目 統語論：「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述 ー構造主義文法, 生成文法, その他の文法</p> <p>第9回目 形と意味：発話に意味を込める ー意味論, 語用論</p> <p>第10回目 会話の原則：言葉の適切な使い方 ー談話分析</p> <p>第11回目 言語と社会：言葉の多様性と普遍性 ー社会言語学</p> <p>第12回目 世界の言語とその系統：言語の進化と分類 ー言語の系統 (印欧・非印欧), 言語と人類の発達</p> <p>第13回目 コンピューターと言語：近未来の言語研究 ー人工知能, 機械翻訳, コーパス言語学</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

(秋) (秋)	多言語間交流研究Ⅱ (言語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号(デジタル信号)に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。</p>		<p>第1回目 形態論 (1) (分綴法)</p> <p>第2回目 形態論 (1) (接辞, 屈折・活用)</p> <p>第3回目 音声学・音韻論 (1) (発音記号)</p> <p>第4回目 音声学・音韻論 (2) (音素・異音, 発音の変異)</p> <p>第5回目 音声学・音韻論 (3) (強勢・イントネーション)</p> <p>第6回目 音声学・音韻論 (4) (生成音韻論)</p> <p>第7回目 統語論 (1) (直接構成素分析, 句構造規則)</p> <p>第8回目 統語論 (2) (構造形成, 語順, 格)</p> <p>第9回目 意味論 (1) (上位概念・下位概念, 同意語・反意語)</p> <p>第10回目 意味論 (2) (メタファー, 指示)</p> <p>第11回目 語用論 (1) (限定, 言語行為, 話題化)</p> <p>第12回目 語用論 (2) (会話の原則)</p> <p>第13回目 談話 (談話構造, スクリプト, スキーマ)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i> , 3rd ed. (Heinle, 2003; ISBN: 0838407951)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

(春) (春)	多言語間交流研究Ⅲ (英語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。また、これと並行して英語の実践的運用能力を高めることにも関連づける。それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後、実際に当該項目が習得されるよう訓練を行う。講義支援システムを利用して集中的学習を行う予定。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論などがある。随時、日本語との対照学習を取り入れ、外国語としての英語学習が容易になるよう試みる。</p> <p>授業外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる。</p>		<p>第1回目 スタディースキル (辞書利用法・ノートの取り方等)</p> <p>第2回目 発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律</p> <p>第3回目 音声学・音韻論 (1)</p> <p>第4回目 音声学・音韻論 (2)</p> <p>第5回目 形態論・語形成 (1)</p> <p>第6回目 形態論・語形成 (2)</p> <p>第7回目 統語論 (1)</p> <p>第8回目 統語論 (2)</p> <p>第9回目 統語論 (3)</p> <p>第10回目 意味論・語用論 (1)</p> <p>第11回目 意味論・語用論 (2)</p> <p>第12回目 ディスコース (1)</p> <p>第13回目 ディスコース (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

(秋) (秋)	多言語間交流研究Ⅳ (英語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。</p> <p>後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。</p> <p>参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする。</p>		<p>第1回目 英語以前 (1): 印欧語族の成立</p> <p>第2回目 英語以前 (2): ゲルマン語族の成立</p> <p>第3回目 伝説時代の英語: 古英語とその社会</p> <p>第4回目 英語の夜明け: 中世とは?そしてその英語</p> <p>第5回目 英語の充実: 初期近代英語とイギリス社会の発展</p> <p>第6回目 英語の黄金期: 近代英語とヴィクトリア朝文化</p> <p>第7回目 英語の多様性: イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異)</p> <p>第8回目 語彙・語源: 本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング</p> <p>第9回目 英語の文法の特徴: 語順・修飾・統御</p> <p>第10回目 英語の発音と綴り: 大母音推移・発音・文字・正書法</p> <p>第11回目 英語の談話構造: パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト</p> <p>第12回目 社会的変異: 社会階層・レジスター・ジャンル</p> <p>第13回目 英語使用の現状: 公用語・第2言語・英語学習・辞書</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
R. McCrum, W. Cran, & R. MacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242)		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	多言語間交流研究V (英語圏の文学)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し前後左右に動かして他の場所をクローズアップしてみるの楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してみる、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。</p> <p>概要</p> <p>文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたものの、すなわち文学の作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかを見ていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、また優れた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異が流れていることです。</p>		<p>授業計画</p> <p>授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんが、この点を承知しておいてください。</p> <p>半期完結授業:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: 読書の楽しみ。私の英米文学への興味の始まりからお話をします。プリントの配布があります。 2. 文学と言葉について: 言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変化、Simplicity、Freshness、Precision、Vigor など 3. 文体について: 多様な作品を例に読んでみます。 (1) <i>The Kitchen at Harmony</i> (2) <i>Life in America</i> (3) (4) <i>The Unicorn in the Garden</i> (5) <i>A Very Short Story</i> (6) <i>The Helmsman</i> (7) and Others 4. 英語圏の文学と社会について 5. 前の授業の続き 6. 前の授業の続き 7. 英語圏の文学とキリスト教 8. 前に授業の続き 9. 前の授業の続き 10. 文学のジャンルについて (1) Verse と Prose について (2) Drama について 11. その構造について (1) プロットとストーリーの重要性について (2) プロットの構成と展開 (3) 登場人物の設定 12. その内容について: 言葉と修辞(レトリック)の重要性について (1) Metaphor、Metonymy、Repetition、Paradox、synecdoche、Imagery、その他のレトリックについて 13. 講義のまとめとレビュー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 作品のハンドアウト一週間前に手渡しますので、それを予習してくると授業の内容が一段とよく理解できるでしょう。</p> <p>参考文献: Laurence D. Lerner. <i>English Literature: An Interpretation for Students Abroad</i>. OUP, London and The Eihōsha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすくできています。書かれた言葉がどんな風に演じられ、話されるかを確かめることもできる効果的な素材となります。</p>		<p>評価方法:</p> <p>3分の2以上の出席がないと試験を受けても単位は出しません。短い感想文(レポート)の提出があるかもしれません。その場合はそれを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。受講生に対する要望等:</p> <p>大切なことはしっかりとノートテーキングすること。また文学・文化、また、ものの見方、考え方に興味を持つこと。</p>	

(春) (春)	多言語間交流研究各論Ⅰ (応用言語学)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である(言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。</p> <p>言語と認知、言語と社会、言語の習得・喪失・維持、外国語教育の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論</p> <p>第2～4週: 言語と認知 －認知からみた言語習得 －脳と言語習得</p> <p>第5～8週: 言語と社会 －言語と文化 －談話分析</p> <p>第9～10週: 言語習得・喪失・維持 －バイリンガルの言語習得 －喪失・維持</p> <p>第11～12週: 外国語教育 －教室第2言語習得研究</p> <p>第13週: 総論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第2言語習得研究の現在—これからの外国語教育への視点(小池生夫編集、大修館書店)		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、期末テスト(40%)	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論Ⅱ (第二言語習得)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。</p> <p>多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)を履修していることが望ましい。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論</p> <p>第2週: 専門用語: 定義および視点</p> <p>第3～4週: 普遍文法 (LAD, UG, GB, PP、肯定証拠、否定証拠など)</p> <p>第5～7週: 仮説(モニター仮説、インプット仮説、インターアクション仮説、アウトプット仮説など)</p> <p>第8～9週: 中間言語・誤答分析</p> <p>第10～12週: 学習者要因</p> <p>第13週: 総論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、期末テスト(40%)	

(春) (春)	多言語間交流研究各論Ⅲ (英語圏の小説 a)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家で、欧米では広く親しまれている人です。彼女の作品は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流で、その中心的な位置を占めているのがオースティンとあってよいでしょう。</p> <p>講義で扱う作品は『高慢と偏見』『説得』を予定しています。</p> <p>チャールズ・ディケンズは 19 世紀のイギリスで最も著名な文人であるばかりか、イギリス文学史を通してシェークスピアについて世界中にその名を知られている作家で、『クリスマス・キャロル』は年代を問わず親しまれてきました。講義では『デイヴィッド・コパフィールド』と『二都物語』を予定しています。</p> <p>人間とか人間性に興味がある人、語学力向上に熱意を傾ける人を望みます。</p> <p>受講生への要望は、講義で扱う作家のものを、どの作品でもよいから、あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば、講義に対する関心と理解が深まることうけあいです。</p>		<p>最初の授業で、この講義の全体的な解説と説明をします。世界各地で昔から親しまれてきたとはいえ、原文はいずれも易しくはないので工夫を凝らして授業を進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>デイヴィッド・セシルのオースティンの評伝を使う予定です。</p> <p>参考文献は授業中に指定します。</p>		<p>平常点、感想文、レポートなど</p>	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論Ⅳ (英語圏の小説 b)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度「英語圏の文学・文化入門」を受講した人は、Virginia Woolf の <i>Mrs. Dalloway</i> (1925) という作品を覚えているかもしれない。第一次大戦のトラウマが描かれた小説である。</p> <p>この講義では、ウルフのもうひとつの代表作、<i>To the Lighthouse</i> (1927) を精読する。ウルフが家族を回想した作品である。しかし回想したと言っても、そこはウルフなので、個人的な思い出をただつづただけではない。時代と交錯させ、口には出されなかった「意識の流れ」を浮き彫りにし、英文学の中の詩や演劇の言葉をちりばめて、抒情的でとてもおいしい作品に仕上げている。</p> <p>ウルフはなかなか一人では読みこなせない本格派だが、だからこそみんなで挑戦してみたい。この講義を通じて、受講者が他の英語圏の小説も、より幅広く読み進めるきっかけになればと願っている。</p> <p>講義概要</p> <p>翻訳と英語の原文を突き合わせつつ読み進める。担当者(片山)は、読みどころを理解するための問いを課題にするので、それを受けてテキストを読んでくること。</p>		<p>1. ヴァージニア・ウルフとは</p> <p>2～5 : <i>To the Lighthouse, Part One</i></p> <p>2. なぜ天気の話が続くのか</p> <p>3. どんな家族関係なのか</p> <p>4. どんな客人たちなのか</p> <p>5. 時代背景</p> <p>6～8 : <i>To the Lighthouse, Part Two</i></p> <p>6. 描写のどこがポイントなのか</p> <p>7. ウルフの戦争の書き方はどうか</p> <p>8. ウルフの階級の書き方は?</p> <p>9～11 : <i>To the Lighthouse, Part Three</i></p> <p>9. 生き残った家族の人々はどうするか</p> <p>10. 生き残った客人たちは?</p> <p>11. どんな絵が残るか</p> <p>12. 小説の中の「母殺し」「父殺し」</p> <p>13. まとめ (英語圏の小説のその後)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ウルフ『灯台へ』(岩波文庫)</p> <p>Woolf, <i>To the Lighthouse</i> (ペンギン版)</p> <p>* DUO で各自購入すること。</p>		<p>毎回の予習課題、コメントカード、レポート</p> <p>* 3回を超えて欠席した場合、原則として評価の対象としない。</p>	

(春) (春)	多言語間交流研究各論V (英語圏の詩 a)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、Native American (いわゆるインディアン) の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティブ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。</p> <p>詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) Introduction 2) Native American の詩。 3) Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing" など。 4) Emily Dickinson, "Because I could not stop for Death," "I taste a liquor never brewed" など。 5) Robert Frost, "Stopping by Woods on a Snowy Evening," "After Apple-Picking" など。 6) Ezra Pound, Imagism 期の短詩, "Hugh Selwyn Mauberley I" など。 7) William Carlos Williams, "The Red Wheelbarrow," "Nantucket," "Poem" などの初期の短詩。 8) Wallace Stevens, "The Snow Man," "Thirteen Ways of Looking at a Blackbird" 9) H. D., "Oread," "Heat" など。 10) T. S. Eliot, "Preludes" など。 11) Robert Lowell, "For the Union Dead" など。 12) Sylvia Plath, "Daddy," "Lady Lazarus" 13) Gary Snyder, "Magpie's Song," "For the Children" など。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Sixteen Modern American Poets</i> (英宝社)とプリント。		2000字以上のレポート。詳細は、追って報告する。	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論VI (英語圏の詩 b)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース>II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト>I T.S.Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. <同>II T.Hughes(1992-1985)など (video 鑑賞) 6. <ロマン派の曙> W.Blake(1757-1827), video 鑑賞 7. <ロマン派の詩> I ワーズワス, video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> II S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) (video 鑑賞) 9. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) 10. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 11. Thomas Gray(1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard"(1751)を読む。 Video 鑑賞 12. John Milton(1608-74) <i>Paradise Lost</i>(1667)のさわり、ソネット23. Video 鑑賞 13. William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (授業開始までに必ず購入すること)</p>		<p>テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

(春) (春)	多言語間交流研究各論Ⅶ (英語圏の演劇 a)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台を観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論Ⅷ (英語圏の演劇 b)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台を観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。</p>	

(春) (春)	多言語間交流研究各論IX (国際語としての英語)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。また話す必要があるのであろうか。</p> <p>本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点:英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週:概論</p> <p>第2~4週:英語の国際化と多様化 -Kachruの3つの円 -英語の普及(歴史等) -ビジンとクレオール(定義等) -方言(定義等)と標準語</p> <p>第5~7週:世界英語</p> <p>第8~10週:母語話者 vs.非母語話者 -英語は誰のもの?(language ownership) -母語話者とは? -非母語話者教員としての役割</p> <p>第11~12週:世界の英語教育</p> <p>第13週:総論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、 期末テスト(40%)	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論X (多言語環境と英語)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」の役割について理解を高めることを目的とする。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点:英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週:概論</p> <p>第2~4週:ことばとアイデンティティ</p> <p>第5~6週:多言語使用に関わる理論</p> <p>第7~9週:世界の言語政策</p> <p>第10~12週:日本における多言語共生</p> <p>第13週:総論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、 期末テスト(40%)	

(春) (春)	多言語間交流研究各論X I (英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>年間、50万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3,500万にも達し、総人口の12%も占めている。白人の割合は減る一方で、2050年には5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ(WASP<White Anglo-Saxon Protestant>)社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家建設とワスプ主義 2. 工業化と新移民の流入 3. 多民族社会の問題 4. 異文化と差別 5. メルティングポット論 6. 冷戦 7. ベトナム戦争 8. カウンターカルチャー 9. カウンターカルチャー 10. 映像 11. 文化多元論 12. アファーマティブアクション 13. 多文化主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカナイゼーション』津田幸男、研究社 『多文化主義のアメリカ』油井大三郎 東京大学出版		学期末試験と小テスト、自由課題	

(秋) (秋)	多言語間交流研究各論X II (英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響下に圧迫されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。</p> <p>イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。</p> <p>反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 銃社会アメリカ ☆ 西部開拓と先住文化の破壊 ☆ パワー・ポリティクスと近隣外交 ☆ ベトナム戦争 ☆ ベトナム戦争 ☆ ベトナム戦争 ☆ 近年の事例 イラク ☆ ポップカルチャー —善なるアメリカの演出— ☆ ディズニー、ハリウッド ☆ アメリカンポップス ☆ 映像 ☆ 味覚の輸出 マクドナルド的なるものとは ☆ 議論 どうアメリカに対応するか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバリゼーションの文化政治』吉見俊哉 平凡社 『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ 日本経済新聞社 『ベトナム戦記』開高健 朝日新聞社 『アメリカ大統領と戦争』A・シュレジンガー, Jr. 岩波書店		学期末テストと小テスト、自由課題	

(春) (春)	多言語間交流特殊研究 I (翻訳通訳論・英語)	担当者	柴原 智幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳・翻訳の理論およびモデルの理解を目的とする。</p> <p>通訳・翻訳においては、その実技面が強調されるあまり、その実技がどのような理論に立脚したものなのかという点が、ともするとおざなりになるきらいがある。本講義では、通訳・翻訳の一般的な理論・モデルなどを紹介する。</p> <p>授業に際しては、毎週大量の英文を読解することが求められる。</p> <p>第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、単位を付与しない。やむをえない事情で出席できない場合は、授業日翌日までに、講師にメールで連絡をとり、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 通訳の 3 次元モデルについて 2 通訳技術とは何か 3 通訳における知識ベースについて 4 通訳における言語能力について 5 逐次通訳の基本理論 6 ノートテイキングについて 7 同時通訳の基本理論 8 二重経路モデルと翻訳 9 翻訳モデル その 1 10 翻訳モデル その 2 11 翻訳モデル その 3 12 誤訳について 13 まとめと期末テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時プリントなどを配布する。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、様々な和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>出席 10% 授業参加および提出物など 50%</p> <p>期末テスト 40%</p>	

(秋) (秋)	多言語間交流特殊研究 IV (翻訳通訳実習・英語)	担当者	柴原 智幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳・通訳のトレーニングを通して、翻訳通訳理論の定着とすでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化する。</p> <p>通訳・翻訳のトレーニングは理論と切り離されて語られることが多い。本講義では、理論をふまえた徹底したトレーニングを行い、英語の受信力・発信力を鍛える。</p> <p>春学期の特殊研究 I を受講していることが望ましい。</p> <p>トレーニングの「質」と「量」を確保するため、毎週様々な課題が課される。</p> <p>第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、単位を付与しない。やむをえない事情で出席できない場合は、授業日翌日までに、講師にメールで連絡をとり、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、発音トレーニング、翻訳課題 2 訳文検討、スラッシュ・リーディング 3 シャドウイング、要約演習 4 スラッシュリーディング、シャドウイング 5 要約練習、日本語トレーニング 6 日本語トレーニング、英文暗唱 7 英文暗唱、逐次通訳 (英日) 8 逐次通訳 (日英)、逐次通訳 (英日) 9 逐次通訳 (英日、日英)、同時通訳 (日英) 10 逐次通訳 (日英、英日)、同時通訳 (日英、英日) 11 同時通訳 (日英、英日)、映像翻訳 (吹き替え) 12 映像翻訳 (吹き替え) 13 まとめと期末テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時プリントなどを配布する。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、様々な和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>出席 10%、授業参加および提出物など 50%</p> <p>期末テスト 40%</p>	

(春) (春)	多言語間交流特殊研究Ⅱ (翻訳通訳論・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳・翻訳の実践、理論、歴史について理解を深め、現代社会の中で翻訳・通訳が果たす役割と問題点を検討していきます。</p> <p>初回はこの科目に関する一般的説明を行います。 二回から四回までは、中国の翻訳史を振り返り、現代に到るまでの翻訳対象と翻訳者の変遷を概観します。 五回から七回まで清朝末期からの翻訳理論と翻訳規範を中心に講義を行います。 八回から十二回までは現代の通訳論（理論、教育、実践）を紹介します。 最終回で学期のまとめと期末評価の方法について説明します。</p> <p>テキストは中国語ですので、中国語の読解力が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国翻訳史(1) 仏典漢訳 3. 中国翻訳史(2) 宣教師による翻訳 4. 中国翻訳史(3) 清朝末期の翻訳 5. 中国翻訳史(4) 現代翻訳事情 6. 中国近代の翻訳論 魯迅の翻訳論 7. 中国近代の翻訳論 胡適、林語堂など 8. 現代の通訳理論(1) 9. 現代の通訳理論(2) 10. 現代の通訳理論(3) 11. 現代の通訳理論(4) 12. 現代の通訳理論(5) 13. 学期のまとめ、成績評価に関する説明 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しません。 必要に応じて授業中にプリントを配布します。</p>		<p>出席率と期末試験（またはレポート課題）によって評価を行います。</p>	

(秋) (秋)	多言語間交流特殊研究Ⅴ (翻訳通訳実習・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教科書は中国の最新の様子を紹介すると同時に伝統的なことも取り上げており、中国についての理解がより深まります。</p> <p>文章は中級向けの学習者にあわせて中国語教育の専門家によって書かれており、習得すべき文法事項や語彙についてもわかりやすい解説があります。テキストの内容を学習することによって自然な言い回しが身に付きます。 また、教科書付属のCDを繰り返し聞くことで中国語の美しい発音とリズムが身に付きます。</p> <p>授業では通訳訓練の手法を用いてリスニング力・スピーキング力・語彙力の増強をはかり、さらに逐次通訳の基礎を固め、原稿付き同時通訳にも挑戦します。</p> <p>学生のレベルと授業の進度に応じて副教材を使用することがあります。副教材はそのつど配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、授業の方法について 2. 上有天堂下有苏杭 3. 长寿面 4. 七夕 5. 春节晚会 6. 国球 7. 高考 8. 北京的“的哥” 9. 海归 10. 跳槽 11. 独生子女 12. 追星族 13. 沙尘暴 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>山下輝彦・蘇英霞『中国を語る～文化と生活～』金星堂</p>		<p>出席率と期末試験によって評価します。</p>	

(春) (春)	多言語間交流特殊研究Ⅲ (翻訳通訳論・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ						
講義目的、講義概要		授業計画							
<p>日本語の文献を用いて、歴史的・理論的観点から考える。そして、ある程度の理解が得られた段階で、翻訳理論分野の英語とスペイン語の文献の読解方法を検討する。</p> <p>翻訳者育成のための各国のプログラムを検討する。</p> <p>最後に、様々なリソースを駆使しながら、この分野のスペイン語文献をある程度の水準の日本語に訳してみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 翻訳 初めに 3. Translation Attitude 4. Development of a Theory 5. Discourse Analysis 6. Translation by Steps 7. 辞書、その他 8. 言語と文化 9. 課題プレゼンテーション 10. 課題プレゼンテーション 11. 課題プレゼンテーション 12. 課題プレゼンテーション 13. 予備日 課題プレゼンテーション 							
テキスト、参考文献		評価方法							
教科書：安西徹雄・井上健・小林章夫（編）『翻訳を学ぶ人のために』世界思想社、2005年。		<table> <tr> <td>平常点</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点	50%	課題プレゼンテーション	30%	レポート	20%
平常点	50%								
課題プレゼンテーション	30%								
レポート	20%								

(秋) (秋)	多言語間交流特殊研究Ⅵ (翻訳通訳実習・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ						
講義目的、講義概要		授業計画							
<p>オーストラリアの翻訳・通訳の国家試験である NAATI の問題に挑戦し、訳出内容を検討する。</p> <p>クラスアワーの前半で翻訳演習、後半を通訳演習にあてる。国家試験のサンプル問題の点数と国家試験と同レベルの類似問題をグループで担当し、通訳、翻訳の実際的な感覚をつかむ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. NAATI 2. 演習問題 1 3. 演習問題 2 4. 演習問題 3 5. 演習問題 3 6. 演習問題 3 7. 演習問題 4 8. 演習問題 4 9. 課題プレゼンテーション 10. 課題プレゼンテーション 11. 課題プレゼンテーション 12. 課題プレゼンテーション 13. 予備日 課題プレゼンテーション 							
テキスト、参考文献		評価方法							
NAATI 問題のプリント クラス内で配布		<table> <tr> <td>平常点</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点	50%	課題プレゼンテーション	30%	課題レポート	20%
平常点	50%								
課題プレゼンテーション	30%								
課題レポート	20%								

(春) (春)	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。</p> <p>注：右に書いた授業計画の前半部は若干回数が多くなることもありえます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 対象としての「文化」の概念 6 歴史的視点と現在の視点 7 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

(秋) (秋)	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>a で話したことを基礎に、まず「異文化」（「未開」文化）明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。</p> <p>注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 方法としての実地調査 (1) 2 同上 (2) 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をするが、具体的に話す事例は、流れのなかで決めてゆく。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

(春) (春)	多文化共生研究Ⅲ (社会学 a)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの周りには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己 (わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものを取りあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史 (1) ——A. コント、H. スペンサー 3. 社会学の歴史 (2) ——E. デュルケム 4. 社会学の歴史 (3) ——M. ウェーバー 5. 社会の種類 (1) ——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の種類 (2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の種類 (3) ——第一次集団 8. アイデンティティ形成と社会 (1) ——鏡に映った自己 9. アイデンティティ形成と社会 (2) ——重要な他者 10. アイデンティティ形成と社会 (3) ——役割取得 11. アイデンティティ形成と社会 (4) ——マージナル・マン 12. 補完的アイデンティティについて 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席と期末試験	

(秋) (秋)	多文化共生研究Ⅳ (社会学 b)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。</p> <p>まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することを強く推奨する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E. フロム 3. 同調様式の3類型——D. リースマン 4. 都市化と移民——W. I. トマスとF. W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E. パーージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R. パーク 7. 社会問題と社会学 (1) 8. 社会問題化すること (2) 9. 現代社会の諸問題 (1) ——移民と日本社会 10. 現代社会の諸問題 (2) ——未定 11. 社会学の現在 (1) 12. 社会学の現在 (2) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席と期末試験	

(春) (春)	多文化共生研究V (異文化間コミュニケーション a)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化へのまなざし (1) 「日本」の表象 6. 異文化へのまなざし (2) 自文化中心主義 7. 内なる異文化 (1) 8. 内なる異文化 (2) 9. 内なる異文化 (3) 10. マルチカルチュラリズムと異文化共生 (1) ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ 11. マルチカルチュラリズムと異文化共生 (2) ——多文化教育の視点 12. 相互行為分析と異文化研究 ——異文化と自文化のあいだ 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート (履修者の状況によってはテストになる場合もある)	

(秋) (秋)	多文化共生研究VI (異文化間コミュニケーション b)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。</p> <p>複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。</p> <p>前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。</p> <p>後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆ モザイク国家アメリカ ☆ 民族混合のジレンマ ☆ 奴隷制下の人種共存 ☆ 黒人の地位向上運動 ☆ 共存のパラダイム転換 ☆ 公民権運動の共生理念 ☆ 急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 ☆ ロス暴動に見る共生の現実 ☆ 多民族混合社会ハワイ ☆ ハワイの経験—多民族の取り込み— ☆ 日本人の移民 ☆ 日系、アジア人の同化体験 ☆ 異人種間共生の手がかり 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカ黒人の歴史』 本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』 上坂昇 講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』 山本英政 明石書店		期末試験と小テスト、自由課題	

(春) (春)	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日米英の三ヶ国に昔から定住してきた代表的マイノリティ (被差別少数派) の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要を説明。マイノリティについての概念規定を行なう。 2. 日系人に対する抑圧を生み出した法的根拠と“White Racism”について学ぶ。 3. 第二次大戦中、12 万人におよぶ日系アメリカ市民に対する強制収容とその賠償問題を学ぶ。 4. アメリカのユダヤ人差別を告発する映画「紳士協定」の合評会を行なう。 5. 僅か半世紀で被差別マイノリティから強力なエリート集団へ変身した人々がいる。それは在米ユダヤ人社会である。彼等の政治力を生み出した源泉を探る。 6. ユダヤ人不在の我が国においても、すでに 1920 年代から「ユダヤ人陰謀論」は存在していた。近年米系ユダヤ人団体から激しい抗議を招くにいたったその背景を探る。 7. 日本人が在米ユダヤ人社会の存在を「発見」するのは日露戦争期においてであった。以後、今日に至る恩義と友好の交流史を学ぶ。 8. 在日コリアンの形成史を学ぶ。 9. 差別とたたかう在日コリアンの現状について学ぶ。 10. 在米コリアンが標的としてえりぬかれた 92 年のロス暴動の背景を探る。 11. 室町時代後期から明治初年までの日本人の黒人認識の変遷をたどる。 日本の政治家による差別発言、在米日系企業による黒人への雇用差別はどのようにして解決されたのかを探る。 12. 奈良県の「部落産業」の現状を紹介した記録映画を通じて部落問題への理解を深める。 13. 被差別部落の現状を整理、紹介する。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		定期試験 70 点 合評会 10 点 出席 20 点 でカウントする。	

(秋) (秋)	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回 10 本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. " " 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系ー日系・中国系・韓国系ー 11. ホワイト・エスニックーアイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著、仮題『映画で学ぶエスニック・アメリカ』(2008 年夏) 1600 円?		出席はとらない。定期試験のみで評価する。試験は 5 択、20 題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。	

(春) (春)	多文化共生研究各論Ⅲ（異文化社会の認識と世界観 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまず確認しておきたい。この文化では、事物についての認識の仕方世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。</p> <p>注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。</p>		<p>詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を考えることができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

(秋) (秋)	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまず確認しておきたい。この文化では、事物についての認識の仕方世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。</p> <p>注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。</p>		<p>「世界観」を頭において話をしてゆく。世界観は、われわれが「宗教」とカテゴリー化する現象のなかによく見ることができる。詳細な内容も回数も明示できないが、「神話」「祖先崇拜」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観を考えることができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	多文化共生研究各論V (比較社会論)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。</p> <p>またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらおう。そういう形をとって「異文化」の(文化人類学だから内容的には「未開」の)さまざまな家族について知識を得てもらいたい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判的な知見をもてるはずである。</p>		<p>人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらかもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これを希望に応じて発表してもらい、また読まないものについては、その発表を聴くことで知識を得てもらう。何回目は何をするか、授業が始まってから決めることになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
論文は用意する。また、その他、必要と思われる文献については随時紹介する。		出席を取ったり、適宜レポートを提出してもらったりという形で、多少出席を強制したい。これを基礎に、期末提出のレポートで評価をする。	

(春) (春)	多文化共生研究各論VI (比較文化論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を比較すること、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。</p> <p>講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例(資料映像・記事など)を用いてディスカッションする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ——異文化を比較すること 2. グローバル化するローカル文化(1) ——情報化社会と文化産業 3. グローバル化するローカル文化(2) ——文化のオリジナリティ 4. 異文化を比較する(1) 時間、空間 5. 異文化を比較する(2) Japanimation と Disney 6. 異文化を比較する(3) 未定 7. 文化帝国主義と「英語」使用 8. オリエンタリズムをめぐって 9. 異文化の翻訳「不」可能性について(1) 10. 異文化の翻訳「不」可能性について(2) 11. 文化変容と異文化の融合(1) 12. 文化変容と異文化の融合(2) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート	

(秋) (秋)	多文化共生研究各論VIII (地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。</p> <p>講義のなかで、受講者自身がわたしたちの身の回りの地域メディアを具体的に取り上げて分析し、その結果を発表する機会をもうけたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア(1) 5. 各地の地域メディア(2) 6. 各地の地域メディア(3) 7. メディアによる地域文化の創造(1) 8. メディアによる地域文化の創造(2) 9. 多文化共生と地域メディア(1) 10. 多文化共生と地域メディア(2) 11. 多文化共生と地域メディア(3) 12. 地域メディアとしてのインターネット 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
B.アンダーソン『増補 想像の共同体』NTT 出版 早川編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 船津衛『地域情報と地域メディア』恒星社厚生閣		出席と発表(履修者多数の場合、レポート)	

(春) (春)	多文化共生研究各論Ⅶ (大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず 20 世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらに IT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 20 世紀のサブカルチャー(1)：ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー(2)：ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー(3)：ヒップホップ 5 20 世紀のサブカルチャー(4)：産業と文化 6 サブカルチャーとグローバル化(1)：日本のロック 7 サブカルチャーとグローバル化(2)：日本のロック 8 サブカルチャーとグローバル化(3)：日本のヒップホップ 9 ヤンキー文化とオタク文化(1) 10 ヤンキー文化とオタク文化(2) 11 複合メディア社会とサブカルチャー(1) 12 複合メディア社会とサブカルチャー(2) 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		期末試験 70%、講義中に課すレポート 30%	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、日本社会で生活する外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題やアイデンティティについて理解を深めることである。いくつかのエスニック集団を紹介し、特に子ども達が直面する問題について取り上げたい。また、受け入れ社会側の人々が、国際移動してきた人々についてどのように認識し対応しているかといった点についても検討したい。そして、かれらの状況について理解するために、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。</p> <p>なお、本講義では受講者が講義内容を理解しやすいように、新聞記事、テレビ番組などの教材を使用する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本における外国人の概況 3. 人の国際移動と日本 4. 人種とエスニシティ 5. 社会的状況：オールドカマー 6. 社会的状況：ニューカマー（1） 7. 社会的状況：ニューカマー（2） 8. 社会的状況：ニューカマー（3） 9. 日本で生活する外国人の子どもたち（1） 10. 日本で生活する外国人の子どもたち（2） 11. 国際移動とアイデンティティ 12. 単一民族国家神話と日本人の外国人観 13. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特になし。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>出席状況（2/3以上、20%）、授業内でのレポート（40%）、期末試験（40%）により評価。</p>	

(春) (春)	多文化共生特殊研究Ⅱ (アメリカ合衆国のラティーノ社会)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。</p> <p>一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。</p>		<p>はじめに：複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へ</p> <p>ラティーノ(米国のスペイン語系住民)</p> <p>①センサスから見る米国の人種・民族集団概念 ②米国ラティーノの特徴と出身地域ごとの特徴 ③ヒスパニックからラティーノへ：人種化するラティーノ</p> <p>ラテンアメリカから米国への人の移動</p> <p>④なぜ人は移動するのだろうか。 ⑤移動の歴史1：キューバ系とプエルトリコ系 ⑥移動の歴史2：メキシコ系 ⑦移動の拡大と最近の移民規制：北米自由貿易協定と国境線の警備強化</p> <p>チカノ(米国のメキシコ系住民)</p> <p>⑧チカノ・ルネサンス 壁画運動など ⑨セサル・チャベスとチカノ運動 ⑩チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」 ⑪プエブロ・インディアン：米国先住民とはだれか +メキシコ先住民の米国への移民</p> <p>おわりに：米国における多文化主義とラティーノ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に必読文献リストを配る</p>		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」についても話をできる内容をもっているが、半期でどこまで話をできるか、わからない部分もある。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。</p> <p>注：この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活してはいます。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。</p>		1 カリブ海域鳥瞰 2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介 3 歴史（1） 4 歴史（2） 5 歴史（3） 6 民族・住民——白人と黒人 7 民族・住民——黒人同士（1） 8 民族・住民——黒人同士（2） 9 民族・住民——黒人とインド人 10 言語分布鳥瞰 11 クレオール語の成立 12 各クレオール語解説（1） 13 各クレオール語解説（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		いつも受講者はごく少ない。出欠を繰り返しては授業ができない。厳しく出席を取るか、適宜レポートを出してもらおうか。それに期末のレポートを加えて評価をする。	

(春) (春)	国際交流研究 I (国際関係論)	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦争を回避するには、いったいどういう方法がもっとも効果的なのか。平和構築のために何をすべきか—そうした問題意識を持ちながら、国際政治の動きを読み解いていく。</p> <p>冷戦の時代、対立していた米国と中国が突如、日本の頭越しに関係改善を成し遂げたのはなぜか。その背景にあった「勢力均衡論」はいまも有効なのか。</p> <p>日本と中国の国交正常化には、実は隠された複雑な問題が潜んでいた。それはいかなるものだったのか。</p> <p>台湾と中国の戦争の可能性をどう見るべきなのか。世界はなぜ、北朝鮮の核開発を止めることができなかったのか。国連はどうして、今なお戦争を止めることができないでいるのか。そして、9・11テロの後、世界はどこに向かって進んでいるのか。</p> <p>そうした課題について、具体的なケースを取り上げつつ、分析を加えていく。</p>		<p>1 はじめに (なぜ国際関係を考えるのか)</p> <p>2 米中和解の衝撃 (上)</p> <p>3 米中和解の衝撃 (下)</p> <p>4 日中国交正常化 (上)</p> <p>5 日中国交正常化 (下)</p> <p>6 台湾海峡危機 (上)</p> <p>7 台湾海峡危機 (下)</p> <p>8 朝鮮半島クライシス (上)</p> <p>9 朝鮮半島クライシス (下)</p> <p>10 国連と平和維持 (上)</p> <p>11 国連と平和維持 (下)</p> <p>12 9・11とイラク戦争</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で適宜紹介していく。		出席、レポート、試験など	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。</p> <p>本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的な事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 国連と平和維持活動（PKO）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国連憲章とPKO 2. PKOの原則と変遷 3. PKOの具体例：モザンビークの場合 4. 日本のPKO協力法 <p>II. 地域紛争と平和協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 武力紛争と和平交渉：エルサルバドルの場合(1) 6. 和平合意と平和維持：エルサルバドルの場合(2) 7. 地域紛争とPKO：成果と限界 8. 地域紛争終結後の課題 <p>III. 平和協力と開発協力の融合</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み 10. 人間の安全保障 11. 平和構築と復興支援の模索 12. 予防外交と予防開発 <p>13. 授業のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

(秋) (秋)	国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約5分の1（約12億人）は1日1ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。</p> <p>本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 地球環境政治</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊 3. 持続可能な開発の模索 4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係 <p>II. 南北問題と開発援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 第三世界諸国の独立とナショナリズム 6. 西側先進国による開発援助戦略 7. 石油危機と第三世界の結束 8. 南々格差の拡大と新しい開発援助戦略 <p>III. 南北問題の争点</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 経済のグローバル化と貧困問題 10. 世界の食糧問題 11. 世界の水問題と砂漠化問題 12. ミレニアム開発目標 <p>13. 授業のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

(春) (春)	国際交流研究Ⅲ (国際機構論)	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義の目的は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。		1 インTRODakション 2 国際組織の概念と歴史 3 国際法の基礎知識 4 国際組織の設立と解散 5 国際組織の国際法上の地位 6 国際組織の国内法上の地位 7 国際組織と加盟国 8 国際組織間の連携・協力 9 国際組織と NGO (民間団体) 10 国際公務員 11 国際組織の意思決定 12 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13 まとめ	
講義概要 本講義では、国際組織の国際法上の理論的諸問題を取り上げて検討する。 本講義は、受講生が国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしていないが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通カリキュラムの国際法や法学部の国際法も受講することを奨励する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
横田洋三編著『新国際機構論 上』(国際書院)		主として学期末に実施する試験と出席により評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	国際交流研究Ⅳ (NGO 論)	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。こうした組織は主にNPO/NGOと言われ、非営利、非政府の立場で独自の視点と発想を持って、各地での活動に取り組んでいる。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）についても詳しく説明する。</p>		<p>①～②「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ/イラクの現状</p> <p>③～④「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ/アフガニスタンの現状</p> <p>⑤スーダンの現状とNGOの取り組み</p> <p>⑥NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア）</p> <p>⑦～⑧ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク</p> <p>⑨パレスチナ問題を考える</p> <p>⑩アフリカにおけるHIV/AIDSの現状</p> <p>⑪政府開発援助とNGO</p> <p>⑫東アジアのなかの日本と私たち</p> <p>⑬NGOの組織運営と資金</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003年		評価方法：レポート提出。平常授業の課題など。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	国際交流研究VI (情報とメディア)	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会における情報の意味、メディアの果たす新しい役割について考える。</p> <p>前半は報道を中心に、一般市民がメディアとどうつきあっていくべきかという、いわゆるメディア・リテラシーについて見ていく。</p> <p>新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で14年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的なメディア論を紹介したい。</p> <p>パブリシティの項目では、メディアと広告との関係を紹介する。映画『バック・トゥー・ザ・ヒューチャー』で知られる俳優マイケル・J・フォックスへのインタビュー記録などを使う。</p> <p>後半は、国際政治の中で大きな関心を集めているソフトパワーに焦点を当てる。ソフトパワーとは、経済力や軍事力といったハードパワーではなく、その国が持つ文化の力のことをいう。考える素材として、ハリウッド映画や日本のアニメを取り上げる。『風と共に去りぬ』や手塚治虫、宮崎駿のアニメなども素材として使う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに (メディアリテラシーとは) 2 報道の自由 (政治とメディアの関係) 3 スcoopと誤報 (メディアの内幕) 4 メディア・スクラムの弊害 (報道被害にどう対処すべきか) 5 パブリシティ 1 (映像と広告の複雑な関係) 6 パブリシティ 2 (俳優マイケル・J・フォックスの苦悩) 7 ソフトパワー論 (ハリウッドの衝撃) 8 メディアの中の女性問題 9 ポリティカル・コレクトネス 10 アニメの台頭がメディアにもたらしたもの 11 日本のアニメ戦略とアジア 12 クラシックとミュージカルの及ぼした効果 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。適宜資料を配布する。		出席、レポート、試験による	

(春) (春)	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視点から検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー 2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー 3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（1） 4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（2） 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー（1） 6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー（2） 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と平和財 9 世界政治と安全保障財 10 世界政治と人権保障財 11 世界政治と貧困・不平等・不正義 12 世界政治と環境保全財 13 知識財 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『地球的規模の問題群と地球公共財』同文館（テキスト）		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

(秋) (秋)	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、そうした国際政治の現実には理論と密接な相互構成関係を形成しているところから、まず、現実と理論との関連の枠組みを明らかにする。その上で、具体的な世界政治の現実としての秩序、権力、経済、規範、イメージ、科学技術を通して、現実と理論との有機的関連性や相互構成性を検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー（1） 3 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー（2） 4 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー（3） 5 世界政治における秩序ー（1） 6 世界政治における秩序ー（2） 7 世界政治における権力ー（1） 8 世界政治における権力ー（2） 9 世界政治と世界経済ー（1） 10 世界政治と世界経済ー（2） 11 世界政治における規範 12 世界政治とイメージ 13 世界と科学技術革命 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治の理論と現実』（アジア大学購部ブックセンター）		試験、レポート、出欠状況による総合評価。	

(春)	国際交流研究各論Ⅲ (国際経済論 a)	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際貿易概観 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーン定理 4 ヘクシャー・オリーン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際資本移動と移民 9 国際資本移動と移民 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 輸入補助金と輸出自主規制 13 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験80%、出席20%	

(秋)	国際交流研究各論Ⅳ (国際経済論 b)	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際資本移動と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験80%、出席20%	

(春) (春)	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつけられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力—とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見してみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—戦後日本と国際環境— 2. 日米戦争への道 3. 米国の占領政策（1）—ローズベルト政権 4. 米国の占領政策（2）—国務省知日派の闘い 5. 米国の占領政策（3）—ヤルタからポツダムへ 6. 敗戦と占領の開始 7. 政党の復活—戦前と戦後 8. 新憲法の誕生（1） 9. 新憲法の誕生（2） 10. 占領改革 11. 戦後日本の出発—政党政治の復活 12. 中道政権の形成と崩壊—改革から復興へ— 13. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

(秋) (秋)	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつけられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から55年体制を経て70年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力—とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—国際社会と戦後日本— 2. 吉田茂の再登場 3. 講和への胎動 4. 「全面講和論」の展開 5. 講和をめぐる国際関係 6. サンフランシスコ講和 7. 保守勢力の混迷 8. 「55年体制」の成立—保守合同と社会党の統一 9. 鳩山・岸内閣 10. 60年安保騒動と政党政治 11. 池田・佐藤政権 12. 混迷の70年代 13. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

(春) (春)	国際交流特殊研究Ⅲ (アジア太平洋地域交流 a)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアとの関連で、他のアジア太平洋諸国についても言及する。近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国、さらに、自国の多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先として知られている。しかし、この国は70年代中期から80年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては、名だたる保護貿易主義国、アジア人を含む有色人種移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような影響をオーストラリアに及ぼしているのか。この講義では、このような課題について、春秋期を通じて、分野別に解明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的、地域研究の意義、中高生用ビデオ教材によるオーストラリア社会概観 2 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（1） 3 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（2） 4 平等主義、仲間主義の起源 5 金発見、高度成長と1890年代恐慌 6 戦争と国家・国民意識の形成 7 アボリジニ 8 白豪主義の終焉と多文化主義社会化 9 反多文化主義と現況 10 女性の社会進出と少子高齢化 11 法律の特色、司法制度、マボ判決の意義 12 政治制度 13 (予備日) 	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年9月およびプリント。		受講条件：bも受講すること。 評価方法：定期試験。感想文提出を求める場合もある。	

(秋) (秋)	国際交流特殊研究Ⅳ (アジア太平洋地域交流 b)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春期の講義を受講していることを前提として講義を進めるので、秋季に初めて受講する場合はテキストの前半部分に眼を通しておくこと。講義目的と概要については春期の欄を参照。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春期の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2 外交：冷戦時代の政策 3 外交政策（安保体制、国連外交） 4 アジア太平洋政策と日米の位置 5 経済構造の特色と変化 6 1970年代以前の主要政策体系 7 70年代の経済困難と金融財政政策 8 ホーク・キーティング労働党政権の政策 9 ハワード政権の政策とラッド政権の政策 10 貿易構造と体内・対外投資 11 日豪関係（1） 12 日豪関係（2） 13 (予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(春期と同じ)		(春期に準ずる)	

(春) (春)	国際交流特殊研究V (グローバル・ガバナンス a)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の種類、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 環境問題と国際社会 2 国際環境問題の紛争解決手法 3 越境汚染と領域使用の管理責任 4 環境に対する国家の責任の進展① 5 環境に対する国家の責任の進展② 6 環境損害に関する民事責任条約 7 国際環境法の諸原則 8 国際環境保全規範と事前防止 9 事前防止の手続的規則①通報・協議 10 事前防止の手続的規則②影響評価 11 国際環境保全と私法 12 国際環境保全と国内公法 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

(秋) (秋)	国際交流特殊研究VI (グローバル・ガバナンス b)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の種類ごとに国際環境法の構造を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 長距離越境大気汚染、酸性雨 2 地球大気圏・気候変動問題① 3 地球大気圏・気候変動問題② 4 海洋環境の保全① 5 海洋環境の保全② 6 南極の環境保護 7 廃棄物の越境移動 8 化学物質、原子力と環境 9 自然環境の保全 10 生物多様性の保全 11 環境と貿易 12 環境と武力紛争 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

(春) (春)	宗教・文化・歴史研究 I (文化史入門)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。</p> <p><講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象(狭義の文化)とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式(広義の文化)がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに(講義の目的、概要、その他) 2 技術文化(その1): 動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか? 3 技術文化(その2): 水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段(その1): 船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 5 運送手段(その2): 陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術: 建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎 7 文学の世界: 叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀: 神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか? 9 性愛の諸相(男と女)(その1): 同性愛 10 性愛の諸相(男と女)(その2): 異性愛 11 競技的(アゴン)人間類型 理想的人間とは? 12 クリエンテラ・パトロネジ関係 「シンポジウム」と親分・子分関係 13 まとめ(総括と展望) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしていることが多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 a では、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド) アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド) ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド) ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド) 仏教とヒンドゥー教の思想 5. (中国) 孔子と論語の思想と墨子の兼愛 6. (中国) 老荘思想と荀子、韓非子 7. (中国) 儒教の革新-宋学の勃興 8. (中国) 宋学の大成-朱子とその周辺 9. (日本) 古事記、日本書紀と神道 10. (日本) 仏教の伝来と鎌倉仏教思想 11. (日本) 道元と親鸞 12. (日本) 宣長 13. (日本) 仁斉と徂徠 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

(秋) (秋)	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしていることが多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 b では、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド) 回教の侵入と伝統的インド思想の変化、とシーク教 2. (インド) 近代西洋とインド文化 3. (インド) ガンジーとタゴール 4. (中国) 明学と清学 5. (中国) 資本主義と共産主義 6. (中国) 現代と儒教思想、 7. (日本) 江戸期の思想 8. (日本) 明治維新期の思想 9. (日本) 福沢諭吉、西周、中江兆民 10. (日本) 京都学派の哲学 11. (日本) 現代の思想状況と西欧との関係 12. 東洋思想史の現代的意義 13. 東洋思想史の現代的意義 II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

(春) (春)	宗教・文化・歴史研究VI (倫理学 a)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>宗教・文化・歴史研究VI (倫理学 a) では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 代中国の倫理思想 (老子、荘子、孔子、孟子) 2. 古代中国の倫理思想 (告子、墨子、荀子、韓非子) 3. 古代ギリシャの倫理思想 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス) 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想 (エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス) 5. 中世の倫理思想 (アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス) 6. ディスカッション (人間とは何か) 7. 宗教と倫理 (仏教倫理と儒教倫理) 8. 宗教と倫理 (キリスト教倫理とイスラム倫理) 9. 近世の倫理思想 (デカルト、ホブズ、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン) 10. 近世の倫理思想 (ヒュームとカント) 11. 近世の倫理思想 (カント) 12. 均整の倫理思想 (ヘーゲルとキェルケゴール) 13. ディスカッション (人間として何をすべきか、幸福と自然) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

(秋) (秋)	宗教・文化・歴史研究VII (倫理学 b)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の倫理思想 (儒学と明治思想と和辻哲郎) 2. 進化論と倫理思想 (ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス) 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝 (ブーバーと西田幾多郎) 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 環境と倫理 II 12. 自然と人間 13. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユダヤ民族の歴史を縦糸に、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の比較対照を試みます。同時に「巡礼」という視点も取り込みたいと考えています。</p> <p>現代でも四国霊場やエルサレム、サンチャゴ・デ・コンポステーラなどは巡礼者でにぎわっています。何が人々を巡礼に駆り立ててきたのでしょうか。</p> <p>書物を通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ばれる人々の考えを知るのではなく、巡礼をテーマとした映画・映像、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 西行・芭蕉——人はなぜ旅をするのか 2&3. ユダヤ民族の歴史 4. 流浪の民としてのユダヤ民族 5. キリスト教の誕生 6. イスラム教とユダヤ教[1]——イスラム教誕生から十字軍の時代まで 7. オスマントルコ時代オリエントにおける、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の関係 8. キリスト教徒の巡礼者たち 9. イスラム圏における反ユダヤ主義 10. 十九世紀キリスト教圏における反ユダヤ主義 11&12&13. ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒、ついでに日本人の《聖なるもの》に対する関係について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しません。</p> <p>参考文献は、講義のなかで指示します。</p>		<p>学期末に「比較」をテーマとしたレポートを提出していただきます</p>	

(春) (春)	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史Ⅰ）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。</p> <p>2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。</p> <p>3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。</p> <p>4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 古代から近世までの思想史の概略</p> <p>3 日本文化の特質について</p> <p>4 仏教と古代日本</p> <p>5～6 キリスト教と日本</p> <p>7 日本の近世思想の概略／江戸という時代</p> <p>8 儒学の思想</p> <p>9 朱子学と日本</p> <p>10 貝原益軒の思想</p> <p>11 荻生徂徠の思想</p> <p>12 水戸学の思想</p> <p>13 武士道について</p> <p>14 幕末維新期の思想／民衆の思想</p> <p>15 歴史意識の「古層」について</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文など。講義中に、文献の暗唱を求めることがあるが、その場合には、その結果を加味する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	宗教・文化・歴史研究各論VI (アラブ文化・芸術 a)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イスラム教 (イスラーム) は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン (コーラン) と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒 (ムスリム) 数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』(フランシス・ロビンソン著)の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 セム族と唯一神教 2 預言者モーゼの「十戒」と律法主義 3 偶像崇拜の禁止とキリスト教 4 「最後の預言者」ムハンマド 5 信仰告白、「アッラー以外に神なし。ムハンマドはアッラーの使徒である」 6 アッラーの啓示、メッカ啓示とメディナ啓示 7 預言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ (聖遷) とイスラム暦 8 ウンマ (信仰共同体) とスンナ (預言者の聖行) 9 カリフ (預言者ムハンマドの後継者) の選出とイスラム的民主主義シューラー (相談・協議) 10 第二代正統カリフ、ウマルの称号「信徒の司令官」 11 第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生 12 シーア派教義「アリーはアッラーのワリー (友)」 13 預言者ムハンマドの孫フセインの「カルバラ殉教」 	
参考文献		評価方法	
小杉泰著『イスラームとは何か』(講談社現代新書、1994年)		出席率と試験による	

(秋) (秋)	宗教・文化・歴史研究各論VII (アラブ文化・芸術 b)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イスラム教 (イスラーム) は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン (コーラン) と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒 (ムスリム) 数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』(フランシス・ロビンソン著)の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 シャリーア (イスラム法) は「水場に至る道」 2 四法源、コーランとハディース (預言者の言行録) 3 イジュマー (合意) とキヤース (類推) 4 「五行」(信仰告白、礼拝、喜捨、ラマダン月の断食、メッカ巡礼) 5 義務の二範疇、「集団的義務」とメッカ巡礼 6 「個人的義務」と「防衛的ジハード」 7 伝統的世界観、「イスラムの家」と「戦争の家」 8 イスラム教の“聖職者”ウラマーとファキーフ (法学者) 9 ホメイニ師のベラヤティ・ファギ (ファキーフによる支配) 論 10 四法学派とワッハーブ派 11 律法主義とスーフイズム (イスラム神秘主義) 12 イブン・アラビーの「存在一性論」 13 トルコの神秘主義教団、ナクシバンディーヤ 	
参考文献		評価方法	
小杉泰著『イスラームとは何か』(講談社現代新書、1994年)		出席率と試験による	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方を参考にする。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらいのかの応答を求められる。</p> <p>外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 「自己」とは何か 5. 「私」と「汝」 6. 「私」と「汝」に関するグループ・ディスカッション 7. 「私」と「汝」に関する全体ディスカッション 8. 「人間」とは何か？ 9. 「人間とは何か」を発する立場について 10. 「人間とは何か」の意味はどこに見いだせるか？ 11. 「人間」は「人間だけ」で人間の存在を正当化できるか？ 12. 「人間とは何か」に関するグループ・ディスカッション 13. 「人間とは何か」に関する全体ディスカッション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。	

(春) (春)	日本語教育研究 I (日本語教育概説)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <p>1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 日本語を外国人に教えるとは？</p> <p>授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。</p> <p>* 毎回、プリントの配布があるが、このプリントはネット上におくので、自分できちんとこのプリントをダウンロード、プリントすること。</p>		<p>1) オリエンテーション — 日本語教育の現場を見る (ビデオ)</p> <p>2) 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違い (言語伝達能力の指導：教養としての国語力)</p> <p>3) 世界における日本語教育</p> <p>4) 国内における日本語教育</p> <p>5) 日本語教育の歴史と現状</p> <p>6) さまざまな日本語教育 (地域住民のための日本語教育、就学生のための日本語教育、など)</p> <p>7) 日本語の教科書紹介とシラバス</p> <p>8) 外国語としての日本語教育法 (直接法で教える)</p> <p>9) 日本語教師に求められる能力(日本語でのコミュニケーション能力をどう捉えるのか)</p> <p>10) 日本語のしくみとその指導法のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味</p> <p>11) 日本語教育の実際 — 教室活動の流れ</p> <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし。但し、プリントの配布</p> <p>参考文献：『ここからはじまる日本語教育』姫野昌子他、ひつじ書房</p>		① 期末定期試験	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	日本語教育研究 II (日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本文化や時事問題について、異文化理解の視点から考察する。授業では、まず、異文化コミュニケーションの基礎概念と学問的なアプローチについて学習する。これらを通じて、日本社会において現実に起こっているコミュニケーション上の問題を分析できるようになることが一つの到達目標である。</p> <p>また、授業においては、日本社会での異文化理解に関する諸問題を扱った発表を課す予定である。発表は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 異文化コミュニケーションの基礎概念① 3 異文化コミュニケーションの基礎概念② 4 日本社会と異文化コミュニケーション① 5 日本社会と異文化コミュニケーション② 6 日本における異文化理解の実践例① (講義) 7 日本における異文化理解の実践例② (発表) 8 日本における異文化理解の実践例③ (発表) 9 日本における異文化理解の実践例④ (発表) 10 日本の国際交流① (講義) 11 日本の国際交流② (発表) 12 日本の国際交流③ (発表) 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献：石井敏他 (編)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣 1997 年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房 2004 年 その他、授業中に指示する。</p>		出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る）。</p> <p>言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ実際に教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。</p> <p>課題研究の発表についてはグループワーク、ペーパーワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般に亘るかなり広範囲の内容になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとコースデザイン（レディネス分析とニーズ分析 2. 学習理論・言語習得理論 3. オーティオリソナル v s コミュニカティブ・アプローチ 4. 教材・教具論 <課題：教科書評価> グループ内での報告 5. 技能別指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語の音声教育 (2) 聴解指導 (3) 文字指導 <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント ②『実践日本語教授法』 中西家栄子他 バベル出版 ③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①課題提出 ②前期テスト ③出席率 	

(秋) (秋)	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		<p>技能別指導法の続き</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) 読解指導 (5) 作文指導 (6) 文法/文型の指導 (7) 会話指導 <ドリルの作成> ドリル課題 - グループでの検討 コミュニケーション活動の紹介 (8) 文法（文型）の指導 - 導入方法 コミュニケーション活動の作成 <課題：上記活動の作成> 7. クラス活動全体の展開 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネージメント（例：誤用の訂正方法） 8. <課題：教案の作成>とクラス内でのグループ発表 9. テスト作成法 ・ 評価 ・ 評価 <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> ①課題提出（教案の作成、その他） ②後期テスト ③出席率 	

(春) (春)	日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。 普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 昨年度までと異なり、今年度は半年間の講義で単音から韻律までの分野を一通りカバーすることになっている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語音を作るしくみ 2. 母音 3. 子音(1) 4. 子音(2) 5. 音素と異音、拍 6. 五十音図とその発音 7. ★中間試験★ 8. 特殊音素(1) 9. 特殊音素(2)、母音の無声化 10. アクセント(1) 11. アクセント(2) 12. イントネーション 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
猪塚恵美子・猪塚元『日本語の音声入門』バベル・プレス（2003年）。そのほか、適宜プリントを配布する。		中間試験、期末試験による。出席は取らない。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕</p> <p>日本語教育のための文法をあつかう。ここで対象とする文法とは、いわゆる「文」をつくりだすための規則のセットとしての文型文法である。この文法は、日本語学習者が、初級段階の学習において、対象とする学習項目である。学習者の初級段階での目標は、この文法を獲得することによって、「文」をつくりだせるようになることである。</p> <p>本講義では、そうした意味をもつ文法について、日本語の教師として必要な知識を獲得することを目的とする。</p> <p>この形態論では、文型文法の前半として、語の認定・動詞の活用・名詞と格・ヴォイス・アスペクトなどをとりあげる。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題（おおおくは例文とそれへの文法の適用分析）をクラスで議論し、発表することによる。文法上の問題をたて、データから解答をつくり、それを解釈して理論とする、ということを授業で実践したい。</p>		<p>第1回 文法とはなにか</p> <p>第2回 語の認定と形態素（1）</p> <p>第3回 語の認定と形態素（2）</p> <p>第4回 名詞と格（1）</p> <p>第5回 名詞と格（2）</p> <p>第6回 名詞と格（3）</p> <p>第7回 動詞の活用（1）</p> <p>第8回 動詞の活用（2）</p> <p>第9回 動詞の活用（3）</p> <p>第10回 ヴォイス（1）</p> <p>第11回 ヴォイス（2）</p> <p>第12回 アスペクト（1）</p> <p>第13回 アスペクト（2）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(秋) (秋)	日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕</p> <p>講義の目的などについては、日本語教育研究各論Ⅳに準ずる。当該の項を参照のこと。なお、日本語文法論は、春学期の日本語教育研究各論Ⅳと秋学期の日本語教育研究各論Ⅴをあわせて全体となるように計画されているが、両者を連続して受講しなければならないものではなく、この講義は、日本語教育研究各論Ⅳの履修を前提とするものではない。</p> <p>日本語教育研究各論Ⅴでは、文型文法の後半として、疑問・時制・モダリティ・「のだ」をあつかうとともに、複文の文法もとりあげる。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>講義の方法などについては、日本語教育研究各論Ⅳに準ずる。当該の項を参照のこと。</p>		<p>第1回 疑問と平叙（1）</p> <p>第2回 疑問と平叙（2）</p> <p>第3回 時制（1）</p> <p>第4回 時制（2）</p> <p>第5回 モダリティ（1）</p> <p>第6回 モダリティ（2）</p> <p>第7回 「のだ」（1）</p> <p>第8回 「のだ」（2）</p> <p>第9回 並列節と副詞節（1）</p> <p>第10回 並列節と副詞節（2）</p> <p>第11回 連体節と補足節（1）</p> <p>第12回 連体節と補足節（2）</p> <p>第13回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が、いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を、文型として獲得することを目標とするとすれば、中級の日本語学習は、複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。この授業では、日本語の談話に、一定の構造を考えることによって、学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。</p> <p>〔講義概要〕 あつかう対象は、指示・省略・主題・隣接ペア・テンス・モダリティ・丁寧さ・ターンなどであり、右欄の計画にそって進行する。受講者は、毎回の授業前に、該当する資料をよんでくることが要求される。授業は、受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお、ここで要求している「質問」は、むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について、より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。</p>		第1回 談話とはなにか、中上級教育と談話論 第2回 指示 第3回 省略と代名詞 第4回 「ハ」主題（1） 第5回 「ハ」主題（2） 第6回 文のモードと隣接ペア（1） 第7回 文のモードと隣接ペア（2） 第8回 テンスとモダリティ 第9回 引用 第10回 丁寧さ 第11回 ターンテイキングなど 第12回 談話と行為 第13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 意味論と語用論について学習する。テキストは英語による意味論・語用論のものであるが、言語学の基礎的な意味論の諸問題を理解することを当面の課題とする。ただし、本講義の最終的な目的は、日本語教育を念頭においたうえでの日本語についての意味論・語用論であるので、できるだけ日本語の問題としてあつかう。</p> <p>〔講義概要〕 本年度の授業は、Hofman & Kageyama による『10 Voyages in the Realms of Meaning』を読解することを中心とする。授業前にテキストの各章を予習してくることが要求される。毎回の授業では、簡単な解説と質問のあと、テキストに付属のエクササイズを日本語に適用した課題について、議論と発表をかさねる。なお、課題は事前に講義支援ポータルサイトに掲示される。</p>		第1回 意味 第2回 有標性 第3回 対義と否定 第4回 指示 第5回 方向 第6回 助動詞 第7回 時 第8回 アスペクト 第9回 語から文へ 第10回 意味と文脈 第11回 談話 第12回 語用 第13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Th. R. Hofman & 影山太郎 共著『10 Voyages in the Realms of Meaning (10日間意味旅行)』くろしお出版.1993年		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春) (春)	日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 第二言語習得の理論を概観した後、日本語と他の言語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p><u>具体的なクラス運営</u></p> <p>① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。</p> <p>② 比較対照を行う演習形式をとる。日本語と英語の翻訳文を資料とし、語順、コソアドなどの文法項目について検討する。</p> <p>③ 後期には講義と学生による課題発表を中心としたい。比較対照の課題における言語は英語に限らない。</p>		<p>1. オリエンテーション 対照研究とは？ 誤用分析とは？ 言語類型論と対照研究 言語習得概論</p> <p>2. 音のしくみ</p> <p>3. 語順</p> <p>4. 形容詞</p> <p>5. 指示代名詞　ーコソアド</p> <p>6. 人称代名詞</p> <p>7. 動詞</p> <p>8. テンスとアスペクト</p> <p>9. 日本語の構造（主題・解説　v s　主語・述部）</p> <p>10. ヴォイス</p> <p>11. 授受表現</p> <p>12. モダリティ</p> <p>13. 敬語</p> <p>14. その他、「原因」「理由」「推量」等さまざまな表現</p> <p>上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しないが日英対照のための小説を使用する。基本的にはプリントの配布を中心とする。</p>		<p>①テスト　②課題発表 ③ 出席率　④クラス参加</p>	

(秋) (秋)	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に同じ</p>		<p>引き続き、上記の項目について講義＋演習の形で進める。授業形態としては、後期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しない。基本的にはプリントの配布を中心とする。</p>		<p>①テスト　②課題発表 ④ 出席率　④クラス態度</p>	

(春) (春)	日本語教育特殊研究Ⅲ (文献読解 a)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の文法とコミュニケーション・ストラテジーについての入門コースである。従って、必要に応じて他の文献も課題として与える。講義の部分もあるが、基本的には、全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>発表担当者は担当部分を要約し、クラスでその内容を解説・発表する。担当者以外の全員は、同様に指定されたテキストを読み、問題点、疑問点等をクラスで述べられるようにする。</p> <p>通年をかけて、テキストを熟読し、日本語について、時には英語と対照しながら、学び、知識の体系化を図る。</p> <p>文法等の内容は基本的なレベルではあるが、履修に際しては、日本語文法等、日本語関連の授業を履修していることが望ましい。</p>		<p>1回目 オリエンテーション 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明</p> <p>2回目以降 テキストの内容にそって、講義を進める。毎回4～5ユニットぐらいずつ進む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>An Introduction to Japanese Grammar and Communication Strategies</i> By Senko K. Maynard, The Japan Times, 1990</p> <p>プリント</p>		<p>①課題のまとめと発表 ② 期末テスト ③出席率 (欠席4回以上は F 評価とする)</p>	

(秋) (秋)	日本語教育特殊研究Ⅳ (文献読解 b)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ</p> <p>The purpose of this course is to learn in great detail not only how Japanese grammar operates, but how native speakers of Japanese use it strategically in conversation. Teaching Japanese well requires that you know the culture that goes with it.</p>		<p>前期に引き続き、テキストの内容を理解し、検討していく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>On Japanese and How to Teach it</i> Edited by Osamu Kamada & Wesley M. Jacobsen, The Japan Times 1990</p>		<p>① 課題のまとめと発表 ②試験の得点 ③出席率 (欠席4回以上は F 評価とする)</p>	

テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本語教育特殊研究VI（日本語教育教材論）	担当者	中西家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。</p> <p>最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、4技能のうち、1つを選び、教材を作成することが課題となる。具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。</p> <p>**注意：このクラスはかなり日本語教育に特化しているため、日本語教育研究I（日本語教育概説）を履修していることが必須であるとともに日本語教育に強い興味を持っている方が履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 2. 機能シラバス 3. コミュニケーションに役立つ日本語教育文法 4. 日本語学的文法から独立した日本語教育文法 5. 学習者の習得を考慮した日本語教育文法 6. 学習者の母語を考慮した日本語教育文法 7. コミュニケーション能力を高める日本語教育文法 8. 聞くための日本語教育文法 9. 話すための日本語教育文法 11. 読むための日本語教育文法 12. 書くための日本語教育文法 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版</p> <p>②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他　大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク その他：論文のプリント（クラスで配布）</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 課題の提出 ② 出席率（クラス活動への参加） ③ テスト（論述式） ④ 課題教材の作成 	

(春) (春)	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>授業の概要</p> <p>1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。</p> <p>2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 学力問題の国際比較（学力調査について）</p> <p>3 学力問題の国際比較（ドイツの事例）</p> <p>4 学力問題の国際比較（フィンランドの事例）</p> <p>5 系統学習と問題解決学習について</p> <p>6 学習の理論</p> <p>7～9 戦後教育と教育思想の歴史</p> <p>10 能力を考える（教育基本法第3条）</p> <p>11 教育における競争と自由の問題を考える</p> <p>12 子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP）</p> <p>13 子どもに固有の権利と人権との関係</p> <p>14 子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見）</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介します。		期末試験結果に、感想文や小レポートの提出、実施した場合には小テストの点数等を加味します。	

(秋) (秋)	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】</p> <p>1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。</p> <p>こうした問題への教師の取り組みを考えるを通し、教職の意義及び教員の役割及び教員の職務内容を学びます。</p> <p>2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行います。</p> <p>3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。 		<p>1 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割</p> <p>2 学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について</p> <p>3 学級崩壊を考える（グループ討論）</p> <p>4～5 学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について</p> <p>6 ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について（その1）</p> <p>7 体罰を考える（グループ討論）</p> <p>8 体罰を考える（体罰に関する理論的問題）</p> <p>9 体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その2）</p> <p>10 いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について</p> <p>11～12 いじめを考える（グループ討論）</p> <p>13 教員の職務内容（研修、サービス、身分保障）について</p> <p>14 様々な進路選択の問題を考える</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類によります。参考文献は適宜紹介します。		期末レポートと数回の小レポートを総合評価します。	

(春) (春)	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●目的 教職課程履修者が最初に受講するものとして設定している。したがって、教職課程の基礎理論として、歴史・思想や教育行政などを対象に、現在の教育動向も絡めながらひろく解説し、導入とする。</p> <p>●概要 ・できるかぎり新聞やビデオなども素材としつつ、学力やカリキュラム、権利条約や日本国憲法、教育基本法などの理念と実態について概説する。 ・学生同士の議論の場を設けたいので、積極的に発言してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義についてのガイダンス (教師という仕事について考える) 2. 獨協大学で免許が取れる理由と免許更新制 3. 戦後教育の歴史 4. 戦後教育から現在の教育改革へ 5. 学校は必要か 6. オールラウンドの日本の学校 7. 「学力」を問う① 8. 「学力」を問う② 9. 「教える」を問う① 10. 「教える」を問う② 11. 子どもの権利条約 12. 公教育制度① 13. 公教育制度② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		学年末のテスト、レポート、および発言などを総合的に評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●目的 教職課程履修者が最初に受講するものとして設定している。したがって、教職課程の基礎理論として、歴史・思想や教育行政などを対象に、現在の教育動向も絡めながらひろく解説し、導入とする。</p> <p>●概要 ・できるかぎり新聞やビデオなども素材としつつ、学力やカリキュラム、権利条約や日本国憲法、教育基本法などの理念と実態について概説する。 ・学生同士の議論の場を設けたいので、積極的に発言してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義についてのガイダンス (教師という仕事について考える) 2. 獨協大学で免許が取れる理由と免許更新制 3. 戦後教育の歴史 4. 戦後教育から現在の教育改革へ 5. 学校は必要か 6. オールラウンドの日本の学校 7. 「学力」を問う① 8. 「学力」を問う② 9. 「教える」を問う① 10. 「教える」を問う② 11. 子どもの権利条約 12. 公教育制度① 13. 公教育制度② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		学年末のテスト、レポート、および発言などを総合的に評価する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学研究Ⅲ（教育の歴史2）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とします。</p> <p>本講義では日本の近代の教育史を担当しますが（1は前近代です）、具体的には幕末以降、1990年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱います。</p> <p>できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講の辞／講義の進め方の説明 2 近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3 学制と明治期の教育 4 教育勅語とその扱い 5 大正自由主義教育 6 生活綴方教育 7 戦争と教育（ビデオ観賞） 8 近現代（第二次大戦以後）の教育史概略 9 憲法と教育基本法体制 10 コア・カリキュラム運動 11 「逆コース」と教育 12 能力主義教育の導入 13 教育の規制緩和と競争 14 教育政策の揺れ 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文などを勘案します。	

(春) (春)	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	白井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。本講義を通じて、教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識を習得することを目標としている。また、講義をきっかけとして、世の中の教育をめぐる話題や動きに関心を持つようになることを期待している。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から教職について理解を深めていく。1つは、教職をめぐる制度についての理解であり、もう1つは、教員の職務内容についての理解である。また、近年の激しい教育改革の動きなどについても、テキストだけでなく、中教審等の各種審議会や検討会議の答申、報告書なども用いながら理解を深めていく。 本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教師を見る社会のまなざしと教職観の変遷 3. 教員の資質・能力 4. 教員養成と教員免許の制度 5. 教員の研修と力量形成 6. 教員の身分と服務 7. 教員の職務と役割 (1) 教員の仕事をを知る① 8. 教員の職務と役割 (2) 教員の仕事を知る② 9. 教員の職務と役割 (3) 学級経営 10. 教員の職務と役割 (4) 校務分掌と学校経営 11. 教員の職務と役割 (5) 開かれた学校づくり 12. 教職キャリア複線化の試み 13. 教員の質の向上と教員評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤晴雄『教職概論 第2次改訂版—教師を目指す人のために』学陽書房、八尾坂修『教員をめざす人の本』成美堂出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況（7割以上の出席を求める）（25%）、出席票の記入状況（25%）、期末テストの結果（50%）によって総合的に判断し評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	白井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。本講義を通じて、教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識を習得することを目標としている。また、講義をきっかけとして、世の中の教育をめぐる話題や動きに関心を持つようになることを期待している。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から教職について理解を深めていく。1つは、教職をめぐる制度についての理解であり、もう1つは、教員の職務内容についての理解である。また、近年の激しい教育改革の動きなどについても、テキストだけでなく、中教審等の各種審議会や検討会議の答申、報告書なども用いながら理解を深めていく。 本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教師を見る社会のまなざしと教職観の変遷 3. 教員の資質・能力 4. 教員養成と教員免許の制度 5. 教員の研修と力量形成 6. 教員の身分と服務 7. 教員の職務と役割 (1) 教員の仕事を知る① 8. 教員の職務と役割 (2) 教員の仕事を知る② 9. 教員の職務と役割 (3) 学級経営 10. 教員の職務と役割 (4) 校務分掌と学校経営 11. 教員の職務と役割 (5) 開かれた学校づくり 12. 教職キャリア複線化の試み 13. 教員の質の向上と教員評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤晴雄『教職概論 第2次改訂版—教師を目指す人のために』学陽書房、八尾坂修『教員をめざす人の本』成美堂出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況（7割以上の出席を求める）（25%）、出席票の記入状況（25%）、期末テストの結果（50%）によって総合的に判断し評価する。	

(春) (春)	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で、教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立ちうるのかを受講者と共に考えていきたい。本講義の授業概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職心理学とはなにか？ 2. 教育評価と学力問題 3. 学習の動機付け 4. 発達障害の理解と教育 		<p>本講義の授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の領域と歴史的展開 2. 教育測定と教育評価 3. 教育評価の方法 4. 教育評価と学力問題 5. 学習の原理 6. 学習における動機付け 7. 学習意欲と原因帰属 8. 学習意欲と目標理論 9. 教師の期待と学習の成果 10. 発達期と発達課題 11. 発達と障害 12. 障害の理解と対応① 13. 障害の理解と対応② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない		出席，小レポート，試験により評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
半期完結授業のため春学期の内容を参照のこと			
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	横田 雅弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は二つの狙いをもつ。第一の狙いは、実際に教職についてときに役立つ心理学の知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。</p> <p>第二の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをよりのばしていかなければならないかを知っていることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.発達と教育(1): 発達観(講義とグループ・ディスカッション) 3.発達と教育(2): 発達の理論 4.交流分析の講義と自己分析 5.自己モニタリングとアサーション・テストによる自己分析 6.グループ・ディスカッション=教師の自己表現 7.グループ・ディスカッション=自分にとってのなりたい教師像、教師としての自分の強みと弱みの自己分析 8.学習と学習指導 (1): 学習理論、動機づけ理論 9.学習と学習指導 (2): 創造性、学習障害 10.不適応と防衛の心理機制 11.カウンセリングの基礎知識 12.グループ・ディスカッション=ケース・スタディ 13.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。パワーポイント等の資料を配布する。		評価は自己分析レポート(A4 ワープロ 2 枚) 40%、学期末試験(持ち込み不可) 40%、出席 20%にて評価する。いずれも厳しく評価するので覚悟の上で参加すること。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・生徒の現状と学校教育の課題 2. 教育心理学の課題 3. 人間の成長と発達の原理 4. 発達段階と発達課題 5. 児童期までの発達 6. 青年期までの発達 7. 社会性・道徳性の発達 8. 学習の原理 9. 内発的動機づけと学習意欲 10. 個人差と教育／障害のある生徒と教育の課題 11. アイデンティティの形成 12. 教育測定と評価 13. 教師の自己点検／まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。</p> <p>参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

(春) (春)	教育科学研究VI (こころの世界)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 2. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 3. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 4. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 5. 性格とは？：自己の性格理解 6. 性格理論 7. 性格の形成 8. ストレス①：ストレスと性格 9. ストレス②：ストレス・コーピング 10. ストレス③：ストレスの生理心理学 11. 現代社会とこころの病① 12. 現代社会とこころの病② 13. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		出席、小レポート、試験により評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	白井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、日本の学校教育を成り立たせている制度について概要を学ぶとともに、学校教育制度の意義と課題について理解を深めることを目的としている。また、他国の教育制度との比較を通じて、教育と文化とのつながりについても理解を深めてもらいたい。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から学校教育制度について理解を深めていく。1つは、日本の教育制度について、その歴史や対象領域を学ぶことである。もう1つは、他国の学校教育制度について概要を知り、日本との相違点やその背景、要因について理解を深めることである。他国の例としては、近年、日本の公立学校に多く在籍している外国人児童生徒の出身国であるブラジルや中国、フィリピンなどを取り上げる予定である。</p> <p>本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本の教育制度 (1) 公教育制度を支える思想と原理 3. 日本の教育制度 (2) 学校教育制度の概観 4. 日本の教育制度 (3) 学校教育制度 5. 日本の教育制度 (4) 教育課程制度 6. 日本の教育制度 (5) 教育行財政制度 7. 日本の教育制度 (6) 改革の現状と課題① 8. 日本の教育制度 (7) 改革の現状と課題② 9. 教育制度と文化 (1) 制度の違いを生む文化の役割 10. 諸外国の教育制度 (1) ブラジル 11. 諸外国の教育制度 (2) 中国 12. 諸外国の教育制度 (3) フィリピン 13. 教育制度と文化 (2) 制度の違いから学ぶ文化の意義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤順一編著『現代教育制度』学文社、二宮皓『世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況（7割以上の出席を求める）（25%）、出席票の記入状況（25%）、期末テストの結果（50%）によって総合的に判断し評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	白井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、日本の学校教育を成り立たせている制度について概要を学ぶとともに、学校教育制度の意義と課題について理解を深めることを目的としている。また、他国の教育制度との比較を通じて、教育と文化とのつながりについても理解を深めてもらいたい。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から学校教育制度について理解を深めていく。1つは、日本の教育制度について、その歴史や対象領域を学ぶことである。もう1つは、他国の学校教育制度について概要を知り、日本との相違点やその背景、要因について理解を深めることである。他国の例としては、近年、日本の公立学校に多く在籍している外国人児童生徒の出身国であるブラジルや中国、フィリピンなどを取り上げる予定である。</p> <p>本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本の教育制度 (1) 公教育制度を支える思想と原理 3. 日本の教育制度 (2) 学校教育制度の概観 4. 日本の教育制度 (3) 学校教育制度 5. 日本の教育制度 (4) 教育課程制度 6. 日本の教育制度 (5) 教育行財政制度 7. 日本の教育制度 (6) 改革の現状と課題① 8. 日本の教育制度 (7) 改革の現状と課題② 9. 教育制度と文化 (1) 制度の違いを生む文化の役割 10. 諸外国の教育制度 (1) ブラジル 11. 諸外国の教育制度 (2) 中国 12. 諸外国の教育制度 (3) フィリピン 13. 教育制度と文化 (2) 制度の違いから学ぶ文化の意義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤順一編著『現代教育制度』学文社、二宮皓『世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況（7割以上の出席を求める）（25%）、出席票の記入状況（25%）、期末テストの結果（50%）によって総合的に判断し評価する。	

(春) (春)	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻く様々な法や制度について、基本的な理解をすると同時に昨今の教育改革動向について自身の意見を持つことを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 2. 学校の制度と組織 3. 教室内の制度と組織 4. 私立学校の制度と組織 5. 日本の公教育制度 6. 日本の中央・地方の教育行政 7. アメリカの教育制度 8. アジアの教育制度 9. 在日外国人の教育と人権 10. ジェンダーと女子教育 11. 不登校とオルタナティブ 12. 教育情報と情報公開 13. 我が国の教育制度改革 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		テストとレポート、出席等を総合的に評価します。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>教育課程論は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育課程に関する課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で教育課程の作成業務を遂行するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『実践に活かす教育課程論・教育方法論』を使用し、講義形式で、教育課程について説明する。さらに、単元計画や学習指導案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 教育課程の基本原則 1 3 教育課程の基本原則 2 4 学習指導要領 1 5 学習指導要領 2 6 教育課程と学習内容 1 7 教育課程と学習内容 2 8 新しいカリキュラム 1 9 新しいカリキュラム 2 10 カリキュラム開発 1 11 カリキュラム開発 2 12 単元計画と学習指導案の作成演習 13 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』、学事出版、2002年。		出席回数、授業時の学習態度、レポートによる総合評価。	

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程 4 教育課程編成の理論と方法(1) 5 教育課程編成の理論と方法(2) 6 教育課程編成の理論と方法(3) 7 学習指導要領と教育課程(1) 8 学習指導要領と教育課程(2) 9 学習指導要領と教育課程(3) 10 学習指導要領と教育課程(4) 11 次期学習指導要領の改訂動向 12 教育課程と評価 13 教育課程と学力問題再考 総合学習の可能性 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅲ (カウンセリング論)	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学ぶ。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講者が50名以上の場合には抽選による。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングとは何か (定義・目的) 2. カウンセラーの役割と資格 3. カウンセラーの世界 (相談機関) 4. カウンセリングと心理療法 5. クライエント中心カウンセリング (1) 6. クライエント中心カウンセリング (2) 7. 精神分析的カウンセリング 8. 認知行動カウンセリング 9. 傾聴の理論 10. 傾聴の実習 11. ロールプレー実習 (1) 12. ロールプレー実習 (2) 13. 教育、産業、医療とカウンセリング 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「カウンセリングへの招待」 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献			

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこで教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。</p> <p>必要に応じて、グループディスカッションやテープやビデオを用いた実習を行ない、単なる理論についての知識だけでなく、教育相談の技法やカウンセリングの応答についての技法を習得する。</p>		<p>第1回：学校カウンセリングとは 第2回：学校という場の特徴 第3回：学校における教育相談 第4回：教職員相互の連携について 第5回：カウンセリングとガイダンスの方法 第6回：カウンセリングの基礎と応用（1） 第7回：カウンセリングの基礎と応用（2） 第8回：不登校の事例検討（1） 第9回：不登校の事例検討（2） 第10回：いじめの事例検討（1） 第11回：いじめの事例検討（2） 第12回：その他の問題 第13回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		授業中に与える小課題や実習レポートなどから評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。一方的な講義でなく対話（かかわりあい）のある授業としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性 2. カウンセリングとは 3. カウンセラーの役割、教師の役割 4. 生徒理解と援助のポイント（1） 5. 生徒理解と援助のポイント（2） 6. カウンセリングの実際（1） 7. カウンセリングの実際（2） 8. カウンセリングの理論と技法（1） 9. カウンセリングの理論と技法（2） 10. 学校カウンセリングと心理テスト 11. キャリアカウンセリングの基礎 12. 保護者への援助：コンサルテーション 13. 校内組織、校外機関の活用と連携／まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。</p> <p>参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	教育科学特殊研究 I (異文化理解教育)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかでもはや学校も「異文化」を扱わざるを得なくなっている。学校での異文化理解教育はもはや必須の項目とってよいだろう。異文化理解教育についての基本的に理念や実践を広く紹介し、自身でもユニークな異文化理解教育を組み立てることができるようになることを目的としている。</p> <p>●講義概要 1～7はいわば理論編、8～13は実践編となっている。これまで蓄積されて理論を理解した後、各地の実践についても紹介しながら、自身で異文化理解教育をプランニングする。 受講生の人数にもよるが、グループ単位での発表も考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方のガイダンス 2. 異文化協調を生み出す教育 3. 国際社会に貢献する学校教育 4. 日本文化と異文化コミュニケーション 5. 外国語教育と国際理解 6. カルチャー・ショックと自文化中心主義 7. 国際理解教育の目標とカリキュラム開発 8. 異質体験にもとづく授業設計と学習指導 9. 異文化理解の学習活動と教材の構成 10. 国際理解教育における素材活用の動向 11. 全国の先進校の実践カリキュラム 12. 特色ある実践事例の紹介 13. 国際理解教育実践の総括と今後の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		テスト、レポート、発表などを総合的に判断する。	

(秋) (秋)	教育科学研究各論VI (こども論)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 こどもについての講義であるが、特に「子育て」と「しつけ」について扱う。「今の子どもはしつけがなっていない」とはどの世代も下の世代に向かって言う嘆きであるが、歴史的にはどうだったのか、現在はどうなっているのか、そして未来はどうあるべきなのか。国際比較や社会学の枠組みも用いながら、これらの課題について考えることを目的とする。</p> <p>●講義概要 1～2では、歴史編として江戸時代の子どもがどのように育てられたのか、そして現在のような子育てがいつから始まったかを明らかにする。4から11はいわば子育て・しつけの行う主体に焦点を当てて「現代」を扱うことになる。それらを踏まえ、12、13ではこれからの子育てはどうなるのか(どうあるべきか)を考えていくこととする。</p> <p>●要望 受講人数にもよるが、できるかぎりディスカッションの時間をとりたい。積極的に発言してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方(自身の「被子育て」体験を振り返る) 2. 歴史から 3. 歴史から② 4. 家族の変動① 5. 家族の変動② 6. 子育てエージェント～父親の役割 7. 子育てエージェント～女性の選択 8. 子育てエージェント～家庭教育施策 9. しつけの難しさ～母性愛とは 10. しつけの難しさ～要因 11. 日本の家庭を国際比較すると? 12. 子育ての未来① 13. 子育ての未来② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		学年末のテスト、レポート、および発言などを総合的に評価する。	

(春) (春)	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていき、その関連領域である「学習の過程」についてあつかう予定である。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてみていくことにする。</p> <p>基本的に、受講者による発表により授業を進めていく予定である。十分な予習が必要となる。また、授業後にもレポートを提出させる予定である。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知科学の領域と対象 2. 認知科学の歴史 3. 知覚① 4. 知覚② 5. 記憶の種類 6. 記憶のしくみ 7. 記憶と学習 8. 学習のしくみ 9. 学習と認知スタイル 10. 脳のしくみ① 11. 脳のしくみ② 12. 失語症 13. 情報工学と脳 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。		出席・レポート・試験により評価する。	

(秋) (秋)	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期完結授業のため春学期参照</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。</p> <p>2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は1万円程度）。</p> <p>3. 合宿で6コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は9回程度とします。2回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。</p> <p>4. 教職課程に登録している必要はありません。</p> <p>5. 履修登録の上限を30名とします。</p> <p>合宿での学習内容は授業中に指示します。</p>		<p>1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介</p> <p>2～3 生活指導とは何か（テキスト使用）</p> <p>4～8 実践記録を読む</p> <p>9 合宿参加のまとめ</p> <p>合宿は12月はじめころ、場所は埼玉県内（森林公園の予定）です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900円）		出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に、自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後は、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p><u>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（1,500円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。</u></p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の成り立ちと種類 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. 職業への興味 5. 将来の夢 6. 感情のIQ 7. 知能検査 8. 絵からみる家族像 9. ストレス・コーピング 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. 検査結果のまとめと自己理解 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙にかかる費用を負担してもらおう予定である。</p>		<p>出席状況と授業レポートにより総合的に評価する。</p>	

(春) (春)	教育科学特殊研究Ⅳ (スポーツコーチ学 a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 今、私達は様々な形でスポーツを楽しむことができます。競技として、趣味としてスポーツをプレーしたり、健康のために実践したりすることや、観戦してスポーツの魅力を味わうこともあります。スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。その身体機構を理解することで実践するときにも観戦するときにも個人個人でよりスポーツの魅力を感じることができるといえます。そこで本講義では運動中の身体各部の機能や適応について理解すること、そして各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。</p> <p>〔講義概要〕 講義内容は基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。そしてスポーツパフォーマンスの向上にかかせないトレーニング科学や栄養学などについても取り上げます。実際にスポーツ中の生理データを測定したり、ビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 身体の基本的な機能 3. 筋の基本構造と機能 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. 動きをコントロールする神経系 6. エネルギー供給機構① 7. 運動と循環 8. トレーニングの基礎 9. 様々なスポーツ種目とその強化の現状 10. スポーツと栄養 11. こども・高齢者・しょうがい者とスポーツ 12. トップアスリートを取り巻く環境 13. まとめ <p>* 講義の内容の順番は変わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学特殊研究V (スポーツコーチ学 b)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、大きく揺れ動く社会全般の変化に直面している現代社会では現実に起こっている変動にどう対応していくのかの重要性について考えていきたい。</p> <p>このことはスポーツの世界においても然りである。スポーツの大衆化、国際化が進展し、スポーツが政治、経済、社会、文化、さらには我々の生活のあらゆる側面に深くかかわっている。スポーツは個人のレクリエーションとしての楽しみ、健康の維持増進、学校体育の一活動領域、地域共同体の行事として政治経済の動向にも大きな影響を与えている。</p> <p>スポーツは、個人または集団が、相手と力や技能を競ったり、自然の障害を克服したりすることを楽しむ活動である。スポーツの場は、人間の最高能力の発揮にかかわるものであり、その心理的な解明は重要である。</p> <p>現代社会におけるスポーツを的確に分析し、スポーツの意義や諸問題についての理解を深めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの意義 2. 現代社会とスポーツ 現代スポーツの課題と方向 3. 少子高齢社会とスポーツ 少子社会とスポーツ 4. 少子高齢社会とスポーツ 高齢社会とスポーツ 5. 商業主義とスポーツ スポーツには金がかかる 6. 商業主義とスポーツ 企業のスポーツへの進出 7. スポーツの社会病理 ドーピング 8. スポーツの社会病理 スポーツと環境問題 9. スポーツ適正とは 10. スポーツ技術の基礎 身体運動のイメージ 11. スポーツ技術の基礎 スポーツ技術の練習・指導法 12. チームの心理 スポーツとチーム 13. チームの心理 チームの力学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院 松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店		出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決定する。	

(春) (春)	教育科学特殊研究VI (リーダーシップ論)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。</p> <p>互いの指導を題材に、ふりかえりと相互評価を行い、リーダーシップに求められる要素を考えていく。</p> <p>個人発表では、自らの経験とリーダーシップ理論との関連で作成したレポートを発表し、全体で討議する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 リーダーシップとは 3 リーダーシップ理論 1 4 リーダーシップ理論 2 5 問題解決活動指導計画の作成 6 問題解決活動の指導 1 7 ふりかえりと相互評価 1 8 問題解決活動の指導 2 9 ふりかえりと相互評価 2 10 教育におけるリーダーシップとは 11 個人発表と討議 1 12 個人発表と討議 2 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布する。		出席、授業への取り組み姿勢、個人発表	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	教育科学特殊研究Ⅶ (体育経営スポーツマネジメント)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スポーツマネジメントの基礎を学ぶことを目的とし、テキストを詳読します。</p> <p>毎週、学んだ項目に関して、身近な事例を調査し、レポートを作成、提出してもらいます。</p> <p>実践・実習科目なので、コミュニケーションのために顔写真1枚と受講票の提出をお願いします。</p> <p>定員があります。</p>		<p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 第1章スポーツマネジメントの概念・発展・カリキュラム</p> <p>第3週 第2章研究、理論、そして実践</p> <p>第4週 第3章会計と予算</p> <p>第5週 第4章スポーツ経済学</p> <p>第6週 第5章スポーツ法</p> <p>第7週 第6章コミュニケーション</p> <p>第8週 第7章スポーツマーケティング</p> <p>第9週 第8章経営管理</p> <p>第10週 第9章大学トレードマークライセンス</p> <p>第11週 第10章人事問題</p> <p>第12週 第11章倫理</p> <p>第13週 第12章スポーツマネジメントの将来展望</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「The Management of Sport」の日本語版(1995年)		出席、毎週のレポート、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価します。	

(春) (春)	教育科学特殊研究Ⅷ (ボランティア論)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織 (NPO・NGO) 活動を理解。 原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。 歴史的・社会的変遷と関連事項 (宗教・医学) の探索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情 (優しさ・介護心・いたわり) の表現と活用の意義を理解し、社会的位置 (小地域的・組織的・国際的) の研究と組織的な協力関係や団体のマネジメント能力の基本的知識の把握 救急法の体得 (心肺蘇生術) (介助・手話の知識習得) 手話入門・草加市探訪</p>		① 4/9 青柳 講座ガイダンス・班編成 ② 4/16 青柳 草加市の福祉施策について ③ 4/23 青柳 キャンパス内のボランティア ④ 4/30 学外講師1) 社会・養護施設・日常での必要性 ⑤ 5/14 学外 (老人体験・介助研究) ⑥ 5/21 学外講師2) 手話 ⑦ 5/28 救急法1) 災害時の応急法について ⑧ 6/4 救急法2) 心肺蘇生法 ⑨ 6/11 青柳 NPOマネジメントについて ⑩ 6/18 学外講師2) 組織運営の基礎と実情について ⑪ 6/25 青柳 モチベーションとコミュニケーションについて ⑫ 7/2 和田 (災害を想定して、自然の中での生活体験 ⑬ 7/9 青柳 草加市探訪・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		実験実技を重んじる講座である 出席重視・レポート提出による評価	

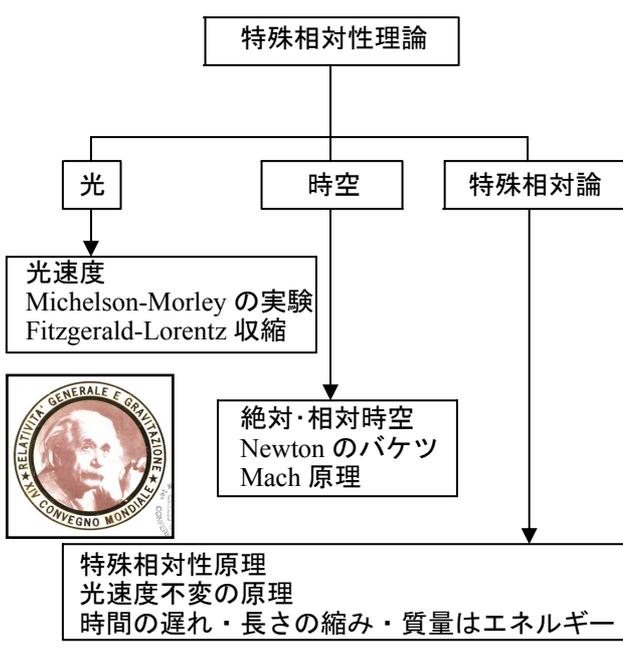
(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

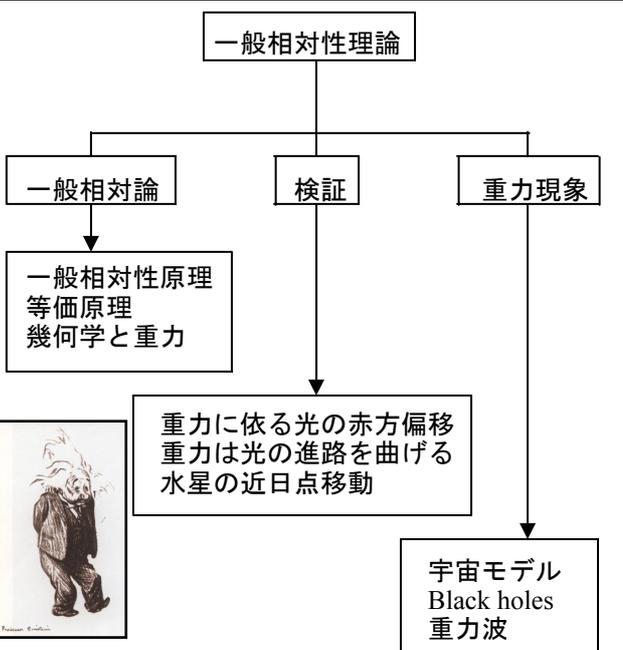
(春) (春)	自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。</p> <p>「自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間・空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートンの宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10. 一般相対性理論 11. 一般相対論的宇宙論 12. 時間とは何か 13. 最新の時間空間概念 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

(秋) (秋)	自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。</p> <p>「自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 不確定性関係 9. 観測の問題 10. 素粒子の世界 11. 統一理論 12. 宇宙の進化 13. 最新の物質観 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

(春) (春)	自然・環境研究Ⅲ (数学 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。</p> <p>② 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。</p> <p>③ 講義・演習を通して、微分学の知識を実際の現象解析に使えるようになればと思います。</p> <p>④ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>		<div style="text-align: center;"> <p>微分学</p> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/ 『入門微分積分』 三宅 敏恒 著・培風館)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (演習・宿題・Quiz) の中身 です。	

(秋) (秋)	自然・環境研究Ⅳ (数学 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>① 『数学 b』では『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分学 (積分・微分方程式)」を学びます。</p> <p>② 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。</p> <p>③ 講義・演習を通して、積分学 (積分・微分方程式) の知識を実際の現象解析に使えるようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。</p> <p>④ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学 (積分・微分方程式) を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>		<div style="text-align: center;"> <p>積分学</p> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/ 『入門微分積分』 三宅 敏恒 著・培風館)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (演習・宿題・Quiz) の中身 です。	

(春) (春)	自然・環境研究Ⅴ (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的 ☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりとさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた 光 の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また Einstein が、 時間 ・ 空間 に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った 発想の転換 、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆ 簡単な数学も必要に応じて使います。		講義概要 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『相対性理論がみるみるわかる本』 佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		☆ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題から出題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

(秋) (秋)	自然・環境研究Ⅵ (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的 ◎ 『宇宙論 b』では『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ◎ “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で 検証 され、 重力 をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題 (Dark energy など) も交えながら学びます。 ◎ 発想を転換して得られた独自の考えは、 用心深く実践 する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ◎ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ◎ 簡単な数学も必要に応じて使います。		講義概要 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
◎ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『相対性理論がみるみるわかる本』 佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		◎ 主に、 試験 (授業・配布プリント・宿題から出題) と毎時間提出の 評価用紙 (宿題・発言) です。	

(春) (春)	自然・環境研究Ⅶ (天文学 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生(?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ❖ 『天文学 a』では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学の立場から学びます。 What is the Sun? ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ❖ 簡単な数学も必要に応じて使います。 			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善) 		<ul style="list-style-type: none"> ❖ 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題から出題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。 	

(秋) (秋)	自然・環境研究Ⅷ (天文学 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> * 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう?地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 * 『天文学 b』では、『天文学 a』の知識を前提に The Solar system (除・太陽) を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。 The Solar system = The Sun's family * 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 * 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 * 簡単な数学も必要に応じて使います。 			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> * (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善) 		<ul style="list-style-type: none"> * 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題から出題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。 	

(春) (春)	自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素（1）気候環境 3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素（3）地形・植生 5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全 8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 環境問題に対する視点 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

(秋) (秋)	自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共存方法について理解を深める。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 世界の環境問題（1）生態系と人間活動 11. 世界の環境問題（2）自然環境の破壊 12. 世界の環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

(春) (春)	自然・環境研究各論Ⅲ (科学技術交流史研究 a)	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要 生態学的大国と称せられている日本の自然は他国と共通の種類が多数生息している一方、日本独特の生物(固有種)も多数いる。本講義ではその日本の自然の特色を紹介しながら我々日本人が自然をどう捉えてきたかを、時代をおって説明する。</p> <p>履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 世界における日本の地理的位置 (基礎的な歴史・地理の試験をします) 2 中国から学んだ博物学 1 3 中国から学んだ博物学 2 4 普遍種 (北半球に共通の種類) 1 5 普遍種 (北半球に共通の種類) 2 6 日本の固有種 7 産業革命以後の博物学 1 8 産業革命以後の博物学 2 9 進化論 1 中世の博物学 10 進化論 2 ダーウィンの役割 11 19世紀は探検の時代 12 Plant Hunter の活躍と日本 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト(随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

(秋) (秋)	自然・環境研究各論Ⅳ (科学技術交流史研究 b)	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。</p> <p>講義概要 日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。</p> <p>履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本に来た欧州人 1 (日本の紹介) 2 日本に来た欧州人 2 (Kaempfer 以前) 3 日本にきた欧州人 3 (Kaempfer) 4 日本に来た欧州人 4 (Thunberg) 5 江戸時代の科学 1 (平賀源内) 6 江戸時代の科学 2 (化政期の同好会) 7 出島に来た博物学者 (シーボルト 1) 8 出島に来た博物学者 (シーボルト 2) 9 出島に来た博物学者 (ビュルガーほか) 10 シーボルトの弟子たち (伊藤圭介) 11 シーボルトの弟子たち (大河内存真) 12 蘭学者の系譜 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト(随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

(春) (春)	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること为目标とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物名に関心があること。 普通の春植物取りあえず 100 種を認識できること。 		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7月の花 1 13 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリント配布		毎回出欠を確認。4回欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

(秋) (秋)	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること为目标とする。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること为目标とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、地理が好きであること。 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること。 		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12月の花 1 13 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリント配布。		毎回出欠を確認。4回欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

(春) (春)	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。 		1 はじめに 簡単なテストの後、講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 顕微鏡使用法 3 細胞の大きさと数 8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 2 果実の構造 10 身近な植物の観察 3 葉の構造 11 自然保護運動 12 身近な植物の観察 4 根の構造 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

(秋) (秋)	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに：簡単なテストの後、講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と分類 12 身近な植物の観察 4 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

(春) (春)	多言語情報処理研究 I (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 インターネット上の多言語処理技術 13 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用(1) 6 関数の利用(2) 7 関数の利用(3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1—スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2—アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

(秋) (秋)	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用(1) 6 関数の利用(2) 7 関数の利用(3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション作成1—スライドの作成、プレゼンテーション方法 10 プレゼンテーション作成2—アニメーションの設定 11 プレゼンテーション発表1 12 プレゼンテーション発表2 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

(春) (春)	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報化社会において、知的資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。</p> <p>本講義では、データベースやWWW検索エンジン、質疑応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／情報検索 2 情報検索の基礎技術 3 情報検索システムの仕組み 4 WEB検索エンジン：ロボットとインデックス 5 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（1） 6 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（2） 7 テキスト検索技術 8 データベースとシソーラス 9 文献検索・図書の検索／演習 10 質問応答技術 11 質問応答システムの演習 12 総合演習、発表 13 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 必要に応じて資料を配布する。		出席、レポートおよび期末試験により、総合的に評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	多言語情報処理研究各論Ⅲ (ホームページ設計)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成—テキスト 8 ホームページの作成—イメージ 9 ホームページの作成—リンク 10 ホームページの作成—テーブル・その他 11 ホームページの作成—完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

(秋) (秋)	多言語情報処理研究各論Ⅲ (ホームページ設計)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成—テキスト 8 ホームページの作成—イメージ 9 ホームページの作成—リンク 10 ホームページの作成—テーブル・その他 11 ホームページの作成—完成 12 ファイルの転送とページの更新 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

(春) (春)	多言語情報処理研究各論IV (データベース)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、 データベースをデザインし、実際に作成をおこなってもらふ。 そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 遅刻は厳禁とします。 またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとデータベース調査 2. データベース概論 3. Access の基本操作(1) 4. Access の基本操作(2) 5. テーブル 6. テーブルと結合 7. クエリー(1) 8. クエリー(2) 9. テーブル設計(1) (関係データ分析-1) 10. テーブル設計(2) (関係データ分析-2) 11. テーブル設計(3) (テーブル作成) 12. クエリー設計 (クエリーの作成) 13. プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2007』 , 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

(秋) (秋)	多言語情報処理研究各論IV (データベース)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、 データベースをデザインし、実際に作成をおこなってもらふ。 そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 遅刻は厳禁とします。 またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとデータベース調査 2. データベース概論 3. Access の基本操作(1) 4. Access の基本操作(2) 5. テーブル 6. テーブルと結合 7. クエリー(1) 8. クエリー(2) 9. テーブル設計(1) (関係データ分析-1) 10. テーブル設計(2) (関係データ分析-2) 11. テーブル設計(3) (テーブル作成) 12. クエリー設計 (クエリーの作成) 13. プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2007』 , 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

(春) (春)	多言語情報処理研究各論Ⅴ (統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。</p> <p>・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？</p> <p>・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？</p> <p>・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？</p> <p>私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をする事ができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。統計手法を学ぶのではない。身の回りの世界を客観的に理解するのである。</p> <p>授業では表計算ソフトと統計ソフトを使用する。数学やパソコンの前提知識は必要としない。グループ学習をベースに、ディスカッションやデータ収集を通して経験的に理解を促す。</p>		<p>第1回目 (1) データを集めてみよう →統計量の種類(量的変量・質的変量): 比例変量, 間隔変量, 順位変量, 名義変量</p> <p>(2) データの傾向を見よう →度数分布, 相対度数, 度数分布表</p> <p>(3) データをグラフ化しよう →量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現</p> <p>第2回目 データの特徴を数値で表そう その1 →代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 分布の歪み, 能力テストと到達度テスト</p> <p>第3回目 データの特徴を数値で表そう その2 →正規分布, 散布度(標準偏差), 歪度, 尖度</p> <p>第4回目 偏差値って何? →標準得点, 偏差値</p> <p>第5回目 データを採点しよう(これまでのまとめ)</p> <p>第6回目 テストを見直す →信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析</p> <p>第7回目 学習時間と英語の成績の関係を数値で表す →相関散布図, 相関関係の種類, 相関係数, 回帰直線</p> <p>第8回目 学習時間と英語の成績には関係があるか? →相関検定, 欠損値の推定</p> <p>第9回目 偶然か, 特殊能力か? →記述統計と推測統計, 仮説(帰無仮説, 対立仮説)</p> <p>第10回目 あさがお観察日記 →対応がない場合のt検定, 分散分析</p> <p>第11回目 ダイエット観察日記 →対応がある場合のt検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析</p> <p>第12回目 出身地と麺類の好みには関係はあるか? →クロス集計, クロス表, カイ二乗検定</p> <p>第13回目 アンケートから何がわかるか? (これまでのまとめ)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範著『よくわかる統計解析の基本と仕組み: 統計データ分析入門』秀和システム, 2004年, ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験(60%) + 平常授業における課題(40%)) x 出席率	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	多言語情報処理研究各論VI (コーパス言語学)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための、コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。 よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自身が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。 なお、コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが、日本語分析についての知識は、あるほうがのぞましい。</p> <p>〔講義概要〕 授業は、教員が簡単なモデルを提示したあと、練習問題をだすので、それを受講生が実習するという形式を原則とする。 さらに簡単なコーパスの設計と組み立て、それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので、履修者には、課題をこなして、発表することがもとめられる。</p>		<p>第1回 コンピュータとDOS 第2回 テキストファイル 第3回 コーパスの設計と構築 第4回 データのダウンロード 第5回 テキスト処理・検索 (1) 第6回 中間発表 (コーパスの設計) (1) 第7回 中間発表 (コーパスの設計) (2) 第8回 テキスト処理・検索 (2) 第9回 テキスト処理・検索 (3) 第10回 形態素解析・茶筌 (1) 第11回 形態素解析・茶筌 (2) 第12回 最終発表 (コーパスによる分析) (1) 第13回 最終発表 (コーパスによる分析) (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講後指示する。		発表と出席で評価する。	

(春) (春)	多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3 自然言語処理の予備知識 4 形態素解析（1） 形態素解析の原理と方法 5 形態素解析（2） 日本語と英語の形態素解析実験 6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7 構文解析（1） 文脈自由文法、句構造文法 8 構文解析（2） 構文解析の原理と実験 9 言語処理の知識源（1） 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10 言語処理の知識源（2） コーパス、言語データベースの構造と使い方 11 言語の統計処理 コーパスからさまざまな知識の抽出技術 12 言語統計モデル 13 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

(秋) (秋)	多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理 b）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術である意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 意味論： 自然言語の意味論、フレーム理論 2 意味解析： 意味解析の方法と実験 3 文脈解析： 談話構造、照応問題の対処法 4 知識の表現法 5 文書処理（1） 言い換え、文書校正 6 文書処理（2） 自動要約の原理、換言処理、要約システム構造 7 機械翻訳（1） 機械翻訳の処理方式と原理 8 機械翻訳（2） 機械翻訳システムの使用と評価 9 質問応答システム 10 情報検索における言語処理技術 11 対話システム 12 自然言語処理システム 13 総合演習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

(春) (春)	多言語情報処理特殊研究Ⅲ (プログラミング論 a)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は MS-Excel (表計算ソフト) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (1) 5 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (2) 6 第 1 回目課題の作成 7 VBA の基礎 (1) コードの入力 8 VBA の基礎 (2) コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第 2 回目課題の作成 10 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (1) 11 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (2) 12 最終課題の作成 (1) 13 最終課題の作成 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

(秋) (秋)	多言語情報処理特殊研究Ⅳ (プログラミング論 b)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義はコンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) または多言語情報処理特殊研究Ⅲ (プログラミング論 a) の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>MS-Excel (表計算ソフト) には情報を実用的に利活用する機能が様々あるが、その手段のひとつである「マクロ」機能を中心とした講義を行う。</p> <p>コンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) で学習してきた「記録マクロ」の復習と、そのなかで利用した VBA (Visual Basic for Application) を一歩踏み込んで理解すること、またプログラミングの基礎を習得することを目的とする。</p> <p>最終的にはコンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) または多言語情報処理特殊研究Ⅲ (プログラミング論 a) で作成した記録マクロを、プログラミングを通して、さらに汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 マクロ機能の復習 3 マクロと VBA について 4 変数と定数 5 セルの参照 6 条件による分岐 7 複数の条件による分岐 8 繰り返し処理 (1) 9 繰り返し処理 (2) 10 ユーザフォームの利用 11 項目の選択を使ったユーザフォームの利用 12 最終課題の作成 (1) 13 最終課題の作成 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋)	多言語情報処理特殊研究V (コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハードウェアとソフトウェア 2 ファイル編成とデータベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム (DBMS) DBMS の目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LAN の構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 情報システムを支える技術 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

(春) (春)	多言語情報処理特殊研究VI (マルチメディア論)	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>動画・音声など、いまやインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ただ単に指示通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。</p> <p>いろいろの手法はあるが、ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。</p> <p>もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後よりいっそうの進化にもつなげられるものとしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. イラストの作成 3. フレームアニメーションの作成 4. トゥイーンアニメーションの作成 5. テキストを使ったアニメーション 6. 作品の製作① 7. インタラクティブなボタンの作成 8. アニメーション 9. 写真の利用 10. サウンドの貼り付け 11. HP のアップロード 12. 作品の製作② 13. 作品の製作③ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜提示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

2008年度

国際教養学部
「スポーツ・レクリエーション部門」
クラス指定科目シラバス

(2008年度入学者用)

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス A	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 A (青柳→松原→依田) 主に、青柳ボールルームダンス、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください。</p> <p>青柳 第2週 リズムに合わせて (ワルツ・ジルバ) 第3週 組んでステップ (ワルツ・ブルース・ジルバ) 第4週 誰とでも踊る (ワルツ・ジルバ・タンゴ) 第5週 踊るマナー</p> <p>松原 第6週 フットサルの練習とゲーム 第7週 フットサルの練習とゲーム 第8週 フットサルの練習とゲーム 第9週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p> <p>依田 第10週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第11週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第12週 ダブルスゲーム 第13週 ダブルスゲーム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス B	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 B (松原→依田→青柳) 主に、青柳ボールルームダンス、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください</p> <p>松原 第2週 フットサルの練習とゲーム 第3週 フットサルの練習とゲーム 第4週 フットサルの練習とゲーム 第5週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p> <p>依田 第6週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第7週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第8週 ダブルスゲーム 第9週 ダブルスゲーム</p> <p>青柳 第10週 リズムに合わせて (ワルツ・ジルバ) 第11週 組んでステップ (ワルツ・ブルース・ジルバ) 第12週 誰とでも踊る (ワルツ・ジルバ・タンゴ) 第13週 踊るマナー</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス C	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 C (依田→青柳→松原) 主に、青柳ボールルームダンス、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください。</p> <p>依田 第2週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第3週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第4週 ダブルスゲーム 第5週 ダブルスゲーム</p> <p>青柳 第6週 リズムに合わせて (ワルツ・ジルバ) 第7週 組んでステップ (ワルツ・ブルース・ジルバ) 第8週 誰とでも踊る (ワルツ・ジルバ・タンゴ) 第9週 踊るマナー</p> <p>松原 第10週 フットサルの練習とゲーム 第11週 フットサルの練習とゲーム 第12週 フットサルの練習とゲーム 第13週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス D	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 D (梶野→松原→依田) 主に、梶野バドミントン、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください。</p> <p>梶野 第2週 バドミントン その1 第3週 バドミントン その2 第4週 バドミントン その3 第5週 バドミントン その4</p> <p>松原 第6週 フットサルの練習とゲーム 第7週 フットサルの練習とゲーム 第8週 フットサルの練習とゲーム 第9週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p> <p>依田 第10週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第11週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第12週 ダブルスゲーム 第13週 ダブルスゲーム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス E	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 E (松原→依田→梶野) 主に、梶野バドミントン、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください。</p> <p>松原 第2週 フットサルの練習とゲーム 第3週 フットサルの練習とゲーム 第4週 フットサルの練習とゲーム 第5週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p> <p>依田 第6週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第7週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第8週 ダブルスゲーム 第9週 ダブルスゲーム</p> <p>梶野 第10週 バドミントン その1 第11週 バドミントン その2 第12週 バドミントン その3 第13週 バドミントン その4</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス F	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、3人の教員の授業を各4回受けます。 順番は以下の通りです。 F (依田→梶野→松原) 主に、梶野バドミントン、松原フットサル、依田卓球を行います。詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと受講票の作成を行います。更衣する必要はありませんが、筆記用具と顔写真1枚を用意して出席してください。</p> <p>依田 第2週 卓球の基本ストロークの練習とルール理解 第3週 卓球の基本ストロークとダブルスゲーム 第4週 ダブルスゲーム 第5週 ダブルスゲーム</p> <p>梶野 第6週 バドミントン その1 第7週 バドミントン その2 第8週 バドミントン その3 第9週 バドミントン その4</p> <p>松原 第10週 フットサルの練習とゲーム 第11週 フットサルの練習とゲーム 第12週 フットサルの練習とゲーム 第13週 フットサルの練習とゲーム 色々な組み合わせによりチームを編成してゲーム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

シラバス 国際教養学部

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学 年	氏 名
学科	年	